



かなざわ新町家 を考えよう

金澤町家の知恵を活かした
これからの住まい

はじめに

このガイドブックは、住宅を新築・改修しようとしている皆様に、現代生活に活かしたい金澤町家の知恵や特徴、そして住宅を建てる際の取り入れ方などをご紹介しますものです。

住宅を新築・改修される建築主、設計者、住宅供給事業者の皆様など、多くの方にご参考にしていただけると幸いです。

「かなざわ新町家」とは…

金澤町家の知恵や特徴を取り入れつつ、現代のライフスタイルにも対応し、金澤町家と共存して金沢のまちなみ景観を形成する都市型住宅を指します。

目次

I かなざわ新町家について

I-1. かなざわ新町家がめざすことは？	2
I-2. 金澤町家ってなに？	3
1) 金沢で受け継がれる金澤町家	3
2) 現代生活に活かしたい金澤町家の良い面	6
I-3. かなざわ新町家に住むってどんなこと？	7

II かなざわ新町家の指針

かなざわ新町家の6つの指針	11
指針1 まちに住まう	12
指針2 まちなみにとけこむ	18
指針3 環境に配慮する	24
指針4 四季を楽しむ	32
指針5 長く大切に使う	36
指針6 和を嗜む	42
計画の流れ	46

III 参考プラン

設計事例1	50
設計事例2-1	52
設計事例2-2	54
設計事例3	56

参考資料

検討経緯	58
------	----



1 かなざわ新町家について

- 1-1. かなざわ新町家がめざすことは？
- 1-2. 金澤町家ってなに？
- 1-3. かなざわ新町家に住むってどんなこと？



～古き良き文化を活かし 持続可能な未来に向けて～

金沢は日本を代表する城下町の一つです。400年以上も戦禍や自然災害の大きな被害を受けなかったことから、当時の都市構造と歴史文化資産が良好に残っています。その歴史文化資産の一つが金澤町家です。金沢の気候風土に合わせて居住や生業が共存する場として継承されてきた金澤町家は、金沢の歴史的な趣きを醸し出す建物であるとともに、生活の知恵や歴史とともに培った文化が凝縮されています。また、自然に寄り添ったエコな住まい方や長く住み続ける工夫、インフラの整ったまち^{*}に集住する利便性の高い暮らしは、SDGsやコンパクトなまちづくりといった今後の社会ニーズにも対応するものです。

金沢市では、金澤町家の保全・活用に向けた取組みを行っていますが、ライフスタイルの変化や相続問題をはじめ様々な理由により、年間約100棟のペースで減少し、金澤町家に根差した文化的景観（歴史と伝統を反映した人々の生活や風情、情緒、佇まい等）も失われつつあります。そのため、金澤町家の保全・活用の取組みを進めつつ、旧城下町などで新築・改修される住宅についても、金澤町家の知恵や特徴を取り入れ、金澤町家と共存し、かつ現代のライフスタイルやニーズにも対応して、次代に引き継がれる都市型住宅（かなざわ新町家）として、金沢のまちなみ景観の向上、生活の知恵や和の文化の継承・発展、持続可能なまちづくりにつなげていきたいと考えています。

そこで、現代生活に活かしたい金澤町家の知恵や特徴をご紹介します、これから住宅を新築・改修しようとする方に取り入れていただけるよう、ガイドラインとしてとりまとめました。

^{*}本ガイドラインにおける「まち」とは、旧城下町や港町など、藩政期より集住している地域を指します。

I-2 金澤町家ってなに？

1 金沢で受け継がれる金澤町家

「金澤町家」とは、金沢市内にある伝統的な構造、形態又は意匠を有する木造の建築物（寺院、神社、教会その他これらに類する建築物を除く）のうち、金沢の歴史、伝統及び文化を伝える建築物で、昭和25（1950）年の建築基準法施行以前に建てられていた歴史的建築物の総称です。

一般的に町家とは、通りに面して建ち並ぶ町人の住宅を指す場合が多いですが、城下町であった金沢での「金澤町家」は、武士系住宅など様々なタイプを含んでいます。

町家

藩政時代に商人や職人たちが住んでいた都市住宅の形式です。隣家同士が接して敷地間口一杯に軒を重ねています。



武士系住宅

藩政時代に武士が住んでいた住宅の形式です。門を構え、周囲を土塀で囲われた敷地のほぼ中央に独立して建っています。



近代和風住宅

明治維新後に西洋文明による近代化の影響を受けた、伝統的建築様式・技法・材料で建てられた住宅です。町家あるいは武士系住宅の流れを汲んでいます。



金沢城下町は、金沢城の周囲に上級の武家地、外縁部に下級武士の居住地や寺院群が配置され、街道沿いなどに町人地が形成されました。金澤町家も、旧武家地には武士系住宅、旧町人地には町家が主に立地するなど、それぞれの地域の特性が反映されています。

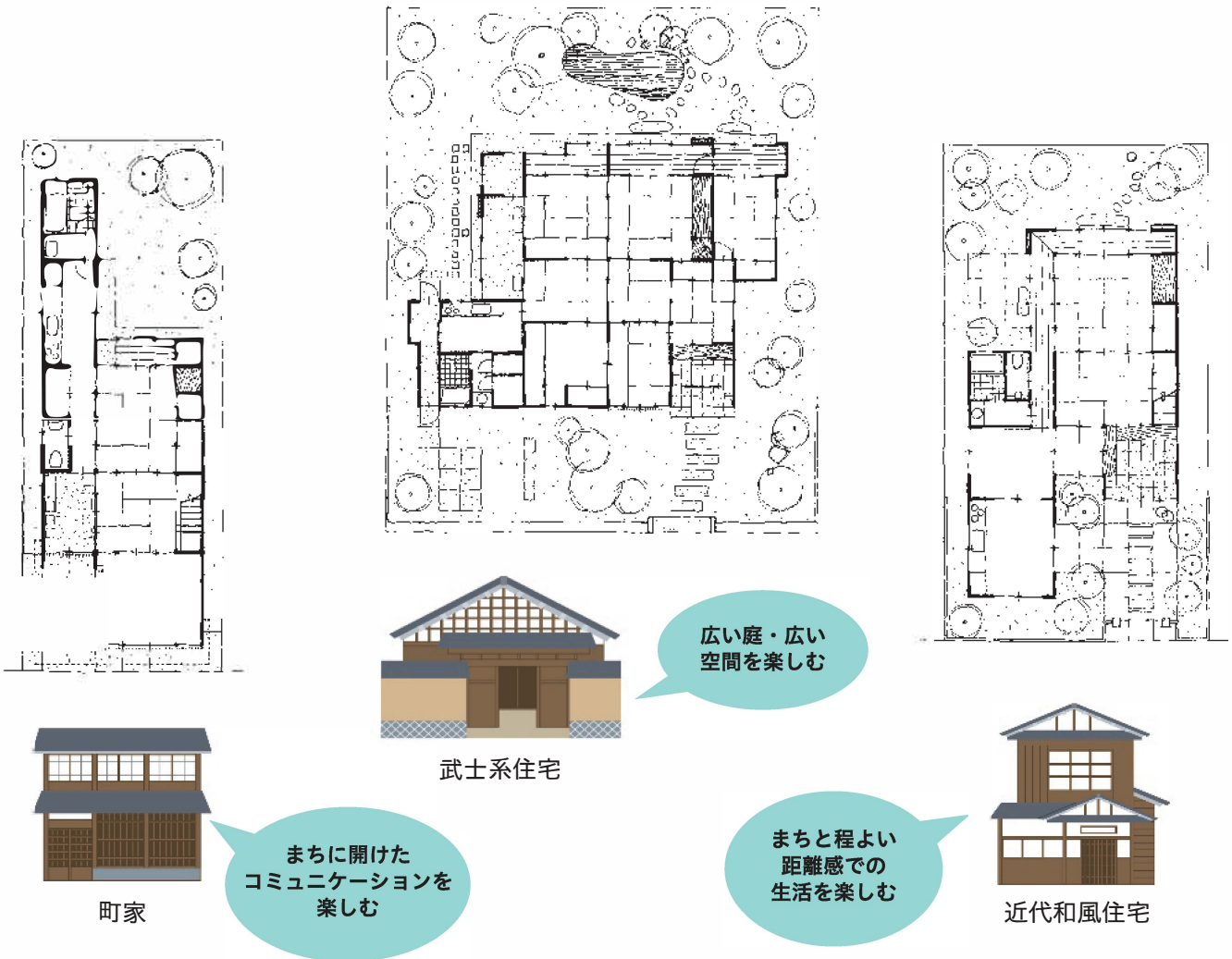
金澤町家や寺院など歴史的建造物が特に集積している地区は、伝統的建造物群保存地区やこまちなみ保存区域に指定し重点的にまちなみの保全を図っていますが、そのほか旧城下町を中心とした区域にも広く金澤町家が残っています。こうした区域を「金澤町家保全活用推進区域」として指定し、金沢の特徴ある景観が継承されています。



お住まいを計画する際には、その場所が旧町人地や旧武家地なのか、または新興住宅地なのかといった地域特性や周囲の建物状況なども把握した上で、まちなみにとけこむようデザインすることが大切です。

そのため、金澤町家が集積している「金澤町家保全活用推進区域」で建てられる場合は、金澤町家の知恵や特徴を取り入れた「かなざわ新町家」とすることを特に推奨します。

また、それ以外のエリアでも、エコで長く住まい続ける工夫や和の文化の継承など、金澤町家の要素で参考になると思う点があれば、ぜひ取り入れてみてください。



お住まいの地域（伝統的建造物群保存地区やこまちなみ保存区域等）によっては、金澤町家の特徴を踏まえた外観デザインにした場合に、助成対象となることがあります。

詳細はこちらへ⇒



地域特性と金澤町家の分布（令和4年度調査時点）

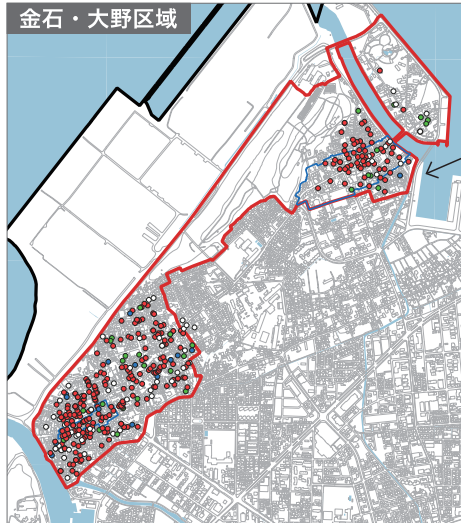
凡例

- 金澤町家保全活用推進区域
- 伝統的建造物群保存地区
- こまちなみ保存区域

建築タイプ

- 町家
- 武士系近代和風住宅
(玄関型・玄関後退型)
- 武士系住宅
- その他・不明

※建築タイプは2012年悉皆調査の結果をもとにしており、それ以降の追加は「その他・不明」に分類されています。



旧町人地のまちなみ



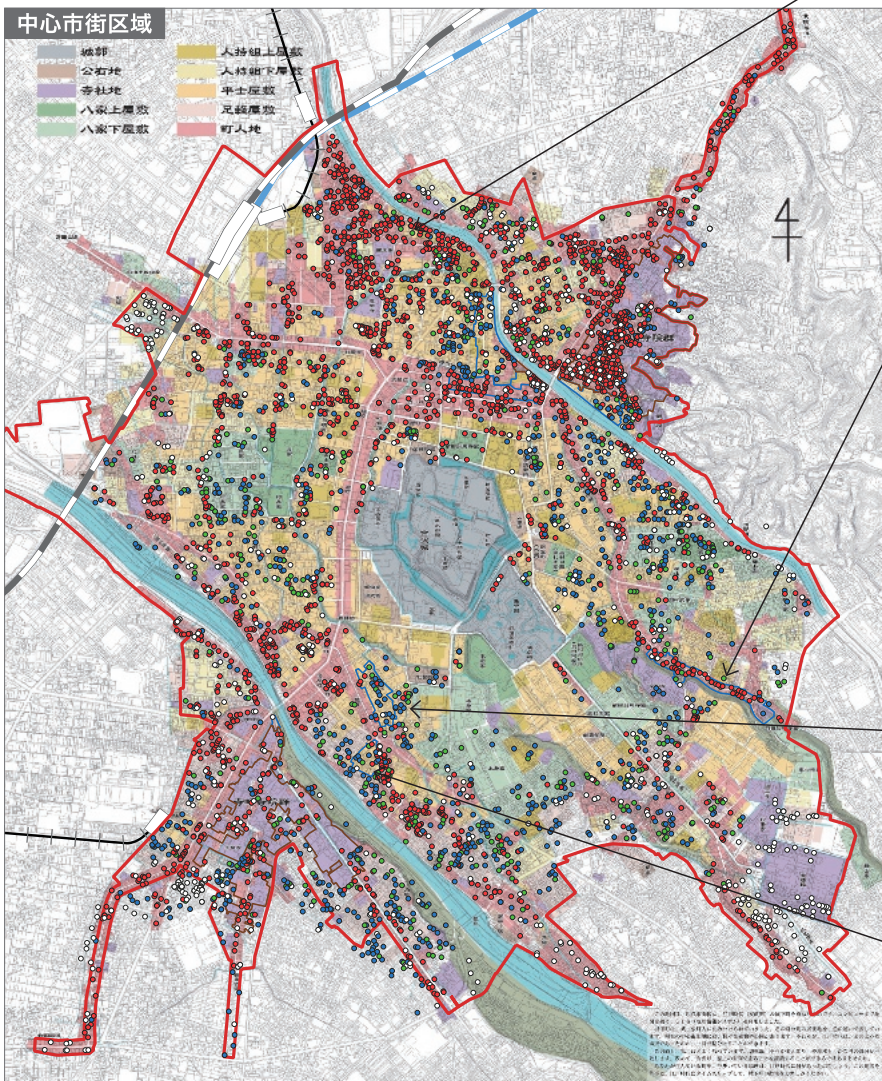
大野町 切妻平入りの町家や下見板張りの醤油蔵が建ち並びます



笠市町 切妻平入りの町家が建ち並びます



天神町 通り沿いに、壁面の位置や軒の高さがそろった切妻平入りの町家が建ち並びます



旧武家地のまちなみ



油車 切妻妻入りや入母屋の武士系近代和風住宅が残ります

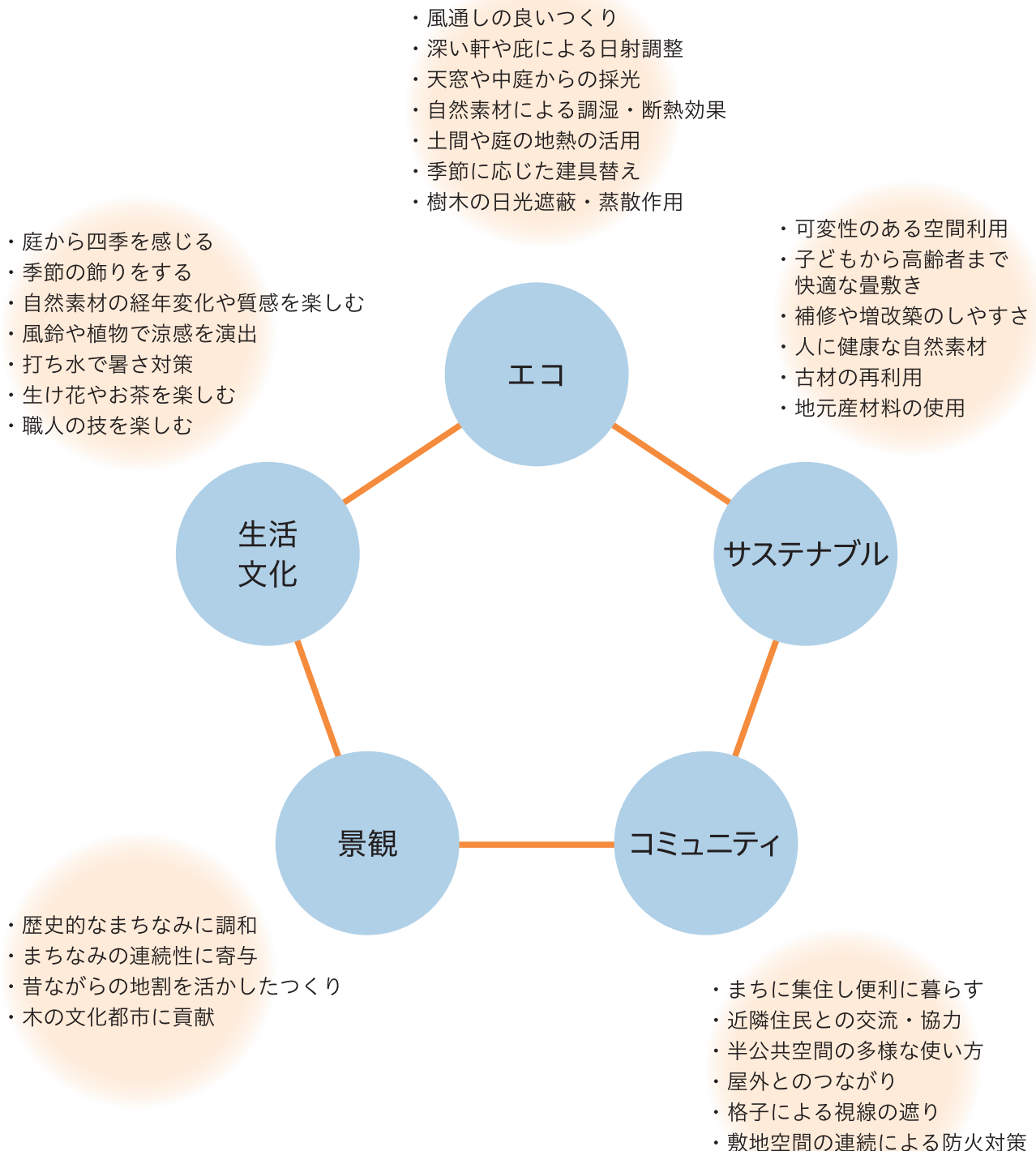


水溜町 土堀に囲われた武士系住宅や、玄関前に植栽のある切妻妻入りまたは入母屋の近代和風住宅が建ち並びます

江戸時代末期の金沢城下町の土地利用図と都市計画図の重ね図（制作：金沢工業大学建築系）に、令和4年金澤町家外観悉皆調査で現存していた金澤町家を建築タイプ別にプロット

2 現代生活に活かしたい金澤町家の良い面

古い建物は暮らしにくく、現代の生活には合わないと思われがちですが、金澤町家は、雨雪の日が多く湿度が高い金沢の気候風土への対応や、四季や文化を楽しむ仕掛け、長く住まい続ける工夫、まちに集住することによるコミュニティへのつながりなど、現代生活でも活かしたい様々な良い面があります。



I-3 かなざわ新町家に住むってどんなこと？

「かなざわ新町家」に住むということは、自身のライフスタイルやニーズに応じた住み心地の良い住まいにするだけでなく、金沢の歴史あるまちなみや文化を担う一員としての役割を果たすとともに、金澤町家の生活の知恵を取り入れ、文化を楽しみながら豊かに暮らすことにつながります。さらに、「かなざわ新町家」の建築により、まちなみが整い、まちの魅力が向上することで、人が集まり、新たな活動や仕事生まれ、まちの価値がさらに高まるといった好循環も期待できます。

まちなみの形成

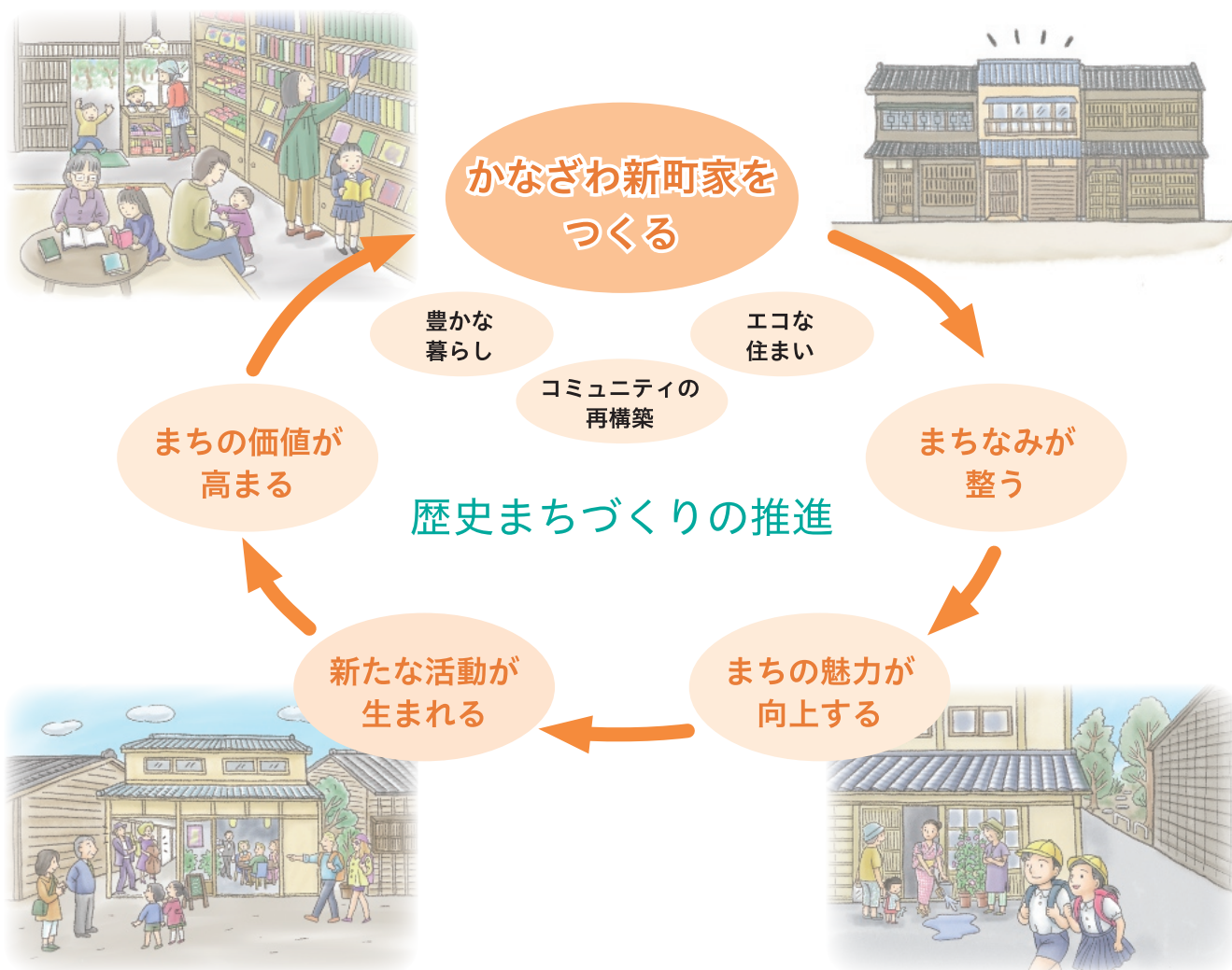
- ・先人によって積み重ねられてきた金沢の歴史に責任と誇りを持ち、まちなみを構成する一員になります。
- ・人が集まって住むことの利便性や、コミュニティで交流・協力しながら暮らす魅力を楽しめます。

生活の知恵の継承

- ・金沢の気候風土に即した生活の知恵を取り入れ、自然に寄り添ったエコな暮らしができます。
- ・木や畳、土、竹など自然素材を用いることで、人にも環境にも優しい住まいとなります。

和文化の再認

- ・四季の移ろいや行事、文化を楽しむ豊かな暮らしができます。
- ・実用性と風情を兼ね備えた文化を取り入れることで、職人の伝統技術の継承への支援につながります。



～引き継がれる金澤町家の魅力～

NPO法人金澤町家研究会・建築士 橋本 浩司

金澤町家の大きな魅力の一つに、長い時間を経てきた趣ある空間の中に身を置けることが挙げられます。自然素材でできた柱や壁や床などの、様々な人の手で使い込まれた表情は、穏やかな安心感を与えてくれます。もちろん、新築ではこれらの古い物としての魅力は備わっていませんが、その他の町家の要素をうまく取り入れることは十分可能です。

家の外観をまちなみに合わせれば、逆にまち全体の魅力を家に引き寄せることにもなり、お互いに価値を高める相乗効果が得られます。庭を座敷からのんびりと眺めれば、たとえ小さな庭であっても、自然と自分が一体となるような、心穏やかなひと時が過ごせます。畳の上で大の字になれば、大草原でのびのびと両手を広げて寝るとの同じです、とある畳職人は言いました。職人の丁寧な手仕事によってつくられた建具は、まるで工芸品を日常使いしているような贅沢を味わえます。

そして、これら全体を通じて、長い時間により培われたこの土地の文化の中でしっかりと暮らしているという、地に足のついた営みの実感を味わうことができるでしょう。



職人による畳づくり



II かなざわ新町家の指針

かなざわ新町家の6つの指針

指針1 | まちに住まう

指針2 | まちなみにとけこむ

指針3 | 環境に配慮する

指針4 | 四季を楽しむ

指針5 | 長く大切に使う

指針6 | 和を嗜む

計画の流れ

〈 指針の構成 〉

指針

※かなざわ新町家で特に重視していることを6つに整理し、指針として示しています。

◆ 金澤町家では… / 現代では…

※指針ごとの背景やメリット、目指していることを記載しています。

1 設計のポイント

※指針を設計に取り入れる際のポイントを記載しています。

金澤町家の知恵

※現代生活でも取り入れていただきたい金澤町家の知恵や特徴を紹介しています。

※  は旧町人地、  は旧武家地の金澤町家の知恵や特徴です。

マークのないものは、旧町人地と旧武家地それぞれの金澤町家に該当します。



※設計の際の具体的なポイントを記載しています。

+ こんなメリットがあります！



※かなざわ新町家の住まい手にとってのメリットを示しています。

おねがい

○○○○○○○○○しまししょう。

※歴史・文化の継承や暮らし方に関するお願いや提案を記載しています。

現代生活への工夫 | ○○○○○○

※金澤町家の知恵を取り入れつつ、現代のライフスタイルや法規制に合わせた工夫を記載しています。

かなざわ新町家の6つの指針

金澤町家には、現代の生活においても安全・快適に過ごすための知恵が多く散りばめられています。

外観のみの金澤町家らしさにとらわれず、自由な発想で金澤町家の知恵を取り入れながら、古き良き文化を継承し、さらに、現代版に発展させ、まちでの居住をより魅力的なものにしたいと考え、特に重視している6つの指針と、設計に取り入れる際のポイントを整理しました。住宅を新築・改修する際に興味のあるポイントを反映してみてください。

指針		設計のポイント
1 まちに住まう 多様な住まい方と 人との交流を楽しむ	まちなみの 形成 生活の知恵の 継承	① 空間の連続性に配慮する ② 交流を楽しむ空間をつくる ③ まちの気配を感じる
2 まちなみにとけこむ 地域の特性を 踏まえてデザインする	まちなみの 形成 生活の知恵の 継承	① まちの地割を活かす ② まちなみをつなぐ ③ まちの歴史を継ぐ
3 環境に配慮する 地球環境に寄り添い、 省エネで健康に過ごす	生活の知恵の 継承 和文化の再認	① 風や光をコントロールする ② 雨や雪に対応する ③ 涼しさを演出する
4 四季を楽しむ 季節を感じる工夫をする	生活の知恵の 継承 和文化の再認	① 四季を感じる庭と眺める場所をつくる ② 季節のものを飾れる場所をつくる ③ 季節に応じたしつらえにする
5 長く大切に使う 長く住み続けられるよう 工夫する	生活の知恵の 継承 和文化の再認	① 長く住まう工夫をする ② 自然素材の質感・変化を楽しむ ③ 木を使う・木を活かす
6 和を嗜む 匠の技を取り入れ、 生活文化を楽しむ	生活の知恵の 継承 和文化の再認	① 床座での生活を楽しむ ② 匠の技を楽しむ ③ 伝統的な生活文化を楽しむ

指針 1

まちに住まう

多様な住まい方と人との交流を楽しむ

◆ 金澤町家では…

まちに集まって住み、地域での住民同士の交流や助け合い、隣近所とのゆるやかなつながりによって、限られた敷地をうまく活かしながら良好な住環境が形成されてきました。



◆ 現代では…

- まちに住むと、歴史あるまちの豊かさを実感でき、文化や賑わいに触れる機会が多く、車に頼らず移動できる利便性の高い暮らしができます。
- 建物や空間の連続性を意識した住まいづくりをすることは、まちなみを保全するだけでなく、風や光を効率よく取り入れ、快適な居住環境をつくることができます。
- 交流を楽しむ空間を取り入れることで、子育て世帯や高齢者世帯、学生など多様な住民が支え合いながら、賑わいある暮らしを生み出します。
- 地域住民がお互いの気配を感じ、協力し合いながら暮らすことは、住宅が密集する都市部では、安心安全なまちづくりにつながります。



郊外での生活では味わうことのできない、
多様で魅力あるまちでの生活を楽しんでみませんか？



まちなかで開催されるイベント



公共シェアサイクルで便利に移動

① 空間の連続性に配慮する

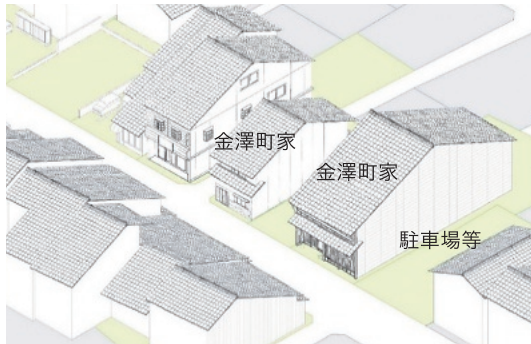
金澤町家の知恵

■ まちの連続性に配慮した配置とする

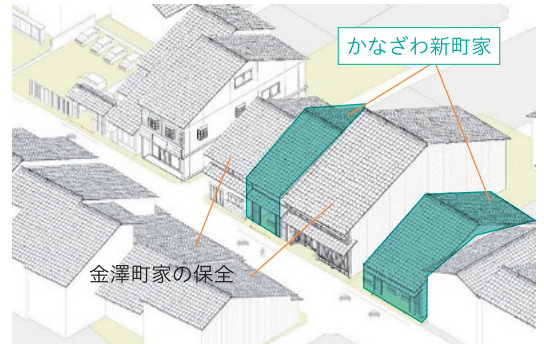
金沢の旧城下町を中心とした区域には、広く金澤町家が残り、趣きあるまちなみが見られます。



周辺のまちなみを確認して、近隣との連続性を意識した建物配置とし、金沢の歴史的なまちなみの一部となって暮らすことを楽しみましょう。



金澤町家が残るまちなみ



まちなみの連続性に配慮した配置で建てる

現代生活への工夫 | 自動車との共存

間口が狭い敷地でも、現代生活のニーズに対応しつつ、まちなみに配慮することができます。例えば、駐車場はビルトイン型（建物内部に取り入れた車庫）としたり、配置を工夫することで、まちなみの連続性が途切れないようにしましょう。



車庫の扉は、格子戸や木目調のシャッターなど景観に配慮しましょう。



雨雪対策や収納スペースの確保、防犯面でも、ビルトイン型がおすすめです。除雪の負担も大幅に減ります。



まちなみに配慮したビルトイン車庫



ビルトイン車庫の事例 駐車スペース前の門・塀の配置事例



おねがい

まちで便利に生活しましょう。

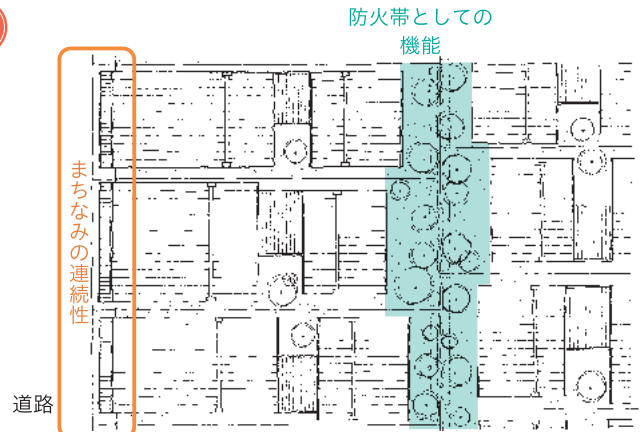
まちは公共交通の利便性が高い地域です。自動車を所有することでかかる維持管理コストも見据え、自動車保有の必要性について考えてみましょう。カーシェアや公共交通、自転車、徒歩など、目的に応じた移動手段を選べることもまちに住む楽しさです。

庭の配置を隣地と合わせて設ける 町人地

町家が密集して建ち並ぶ地域では、裏側に庭を設ける配置として緑の空間を揃えることで、災害時の安全性の向上や、自然環境を効果的に取り入れた快適な住環境につながっています。



設計する前に近隣建物の庭と建物の配置を確認しましょう。



町人地で近隣と合わせた配置

+ こんなメリットがあります！

■ 通風、採光の効率が高まる

裏庭や中庭に大きな空間が生まれると、風や光の通り道をつくることができます。建物の中にも効率よく取り入れられ、光熱費や冷暖房費を抑えることができます。

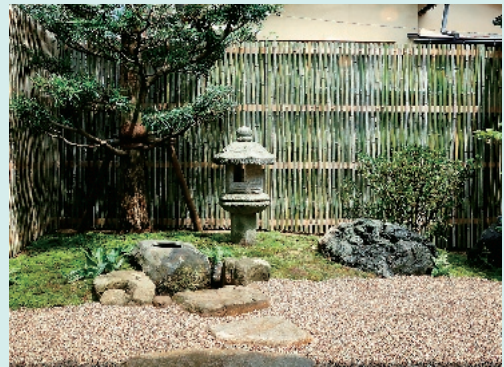
⇒ 詳しくは指針3のP25をご覧ください。

■ 防災対策になる

裏庭を設けることで、建物の表側と裏側の2方向から避難することが可能になります。また、火災時には延焼防止帯としての役割も期待できます。

■ 借景を楽しむ

それぞれが庭を持ち、位置を揃えることで自宅から見える緑の豊かさを高めることができます。



裏庭

② 交流を楽しむ空間をつくる

金澤町家の知恵

■ 庇や下屋などで軒下の半屋外空間をつくる 町人地

軒下のわずかな空間は、さりげなく緑で飾ったり、雨宿りやひと休み・立ち話の場としても使われるなど、多様な役割を果たしてきました。



軒下空間の使われ方

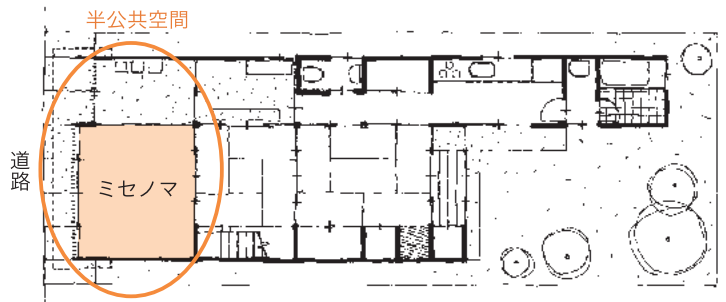
■ まちに開いた半公共空間をつくる 町人地

通りに面した1階の部屋はミセノマと呼ばれ、商売を行ったり、来客を迎えるなど、人と交流を深める場として利用されてきました。

■ 土間空間を活かす

床を張らず、土足で歩けるように作られた空間を土間といいます。金澤町家では、主に外と内を行き交う通路や店舗・作業場として使われてきました。

⇒土間の涼しさについては指針3のP30をご覧ください。



町家の空間構成

+ こんなメリットがあります！

■ 住民との交流や地域の賑わいが生まれる

通りに面した空間は、半公共的なスペースとして、近隣住民とのコミュニケーションの場となることが期待できます。また、店舗や工房との相性も良く、職場として活用することも有効です。

半公共空間を設けることで、通りと奥側のプライベートスペースとの緩衝空間にもなります。



交流スペースとしての活用

■ 土間空間の多様な使い方が可能

現代の一般的な住宅でも、収納や趣味のスペースなど、土間の多様な使われ方が広まっています。



土間スペースの活用

3 まちの気配を感じる

金澤町家の知恵

格子を設ける 町人地

旧町人地では通りに面して町家が建ち並び、建物から道路が近いので、通りに面した開口部には格子を設け、中から外はよく見え、外から中は見えにくくなっています。特に、金沢の茶屋街では、断面が台形の格子「キムスコ」が用いられており、より見え方に配慮しています。



窓の大きさや位置によって格子の間隔やデザインを工夫してみましょう。



通りに面した格子窓

+ こんなメリットがあります！

■ 防犯・防災機能が高まる

格子をつけた窓からは、通りで起きている出来事や異変に気づきやすくなります。地震や火災等の災害時には、周囲の様子を感じ、迅速に対応できる可能性が高まります。

また、建物内部から漏れる住宅の明かりにより、夜間も地域住民が安心して歩けるとともに、情緒あるまちなみを醸し出します。

■ ほどよく住民の気配を感じられる

格子越しに、地域住民の生活の気配やつながりを感じることができ、安心して住まうことができます。



格子の内側から見た様子

現代生活への工夫 | 住まい手のニーズに応じた立地の選択

通りに面して軒を連ねる旧町人地の建て方は、まちの気配が感じられる一方、通りに面して門や塀を構え、建物は後退して配置する旧武家地の建て方は、外部と程よい距離感で暮らしたい人には適しています。暮らし方をイメージして、建築場所を選択することも大切です。



武士系近代和風住宅の間取り

指針 2

まちなみにとけこむ

地域の特性を踏まえてデザインする

◆ 金澤町家では…

金澤町家は、金沢の文化的景観を構成する大切な要素の一つであり、これまで各地域の歴史的
文脈に即したまちなみがつくられてきました。



◆ 現代では…

- 受け継がれてきた町人地、武家地の地割を活かすことで、まちなみにとけこんだ建物とすることが出来ます。
- 建物がまちなみをつくる一つの要素であることを意識し、周囲の建物状況を確認するなど、
地域の特徴を理解するように努めましょう。



周囲と調和したボリューム、デザインに配慮し、
まちの歴史を継いでいきませんか？



旧町人地のまちなみ（天神町）



旧武家地のまちなみ（里見町）

① まちの地割を活かす

金澤町家の知恵

地割を活かしたスケール感とする

金沢のまちは戦災を免れたため、城下町の痕跡が多く残っています。武家地や町人地など、細い街路に沿って、当時の地割を変えずに建っている場合も多く、まちなみの統一感が地域の魅力となっています。



設計する前に地域の歴史を知り、近隣の建物規模や配置を確認しましょう。

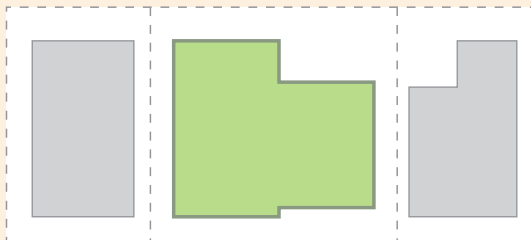
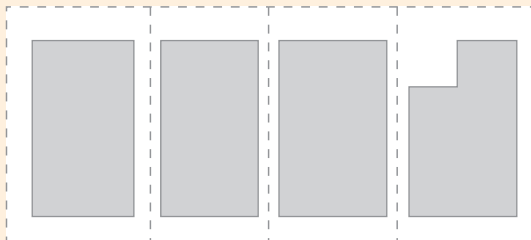


地割に合わせて2棟に見える外観として工夫された1棟の新築建物

おねがい

美しいまちなみにとけこむようにしましょう。

土地を統合した場合に、従来と異なる規模の建物を建てると、通りの印象が変わります。地割に配慮して配置やデザインを工夫するなど、地域に合ったスケール感の建物にしましょう。統一感のある美しいまちなみにつながります。



土地を合筆しても従来の分節されたスケール感を残す配置イメージ



通りの建物の大きさや軒の高さに配慮し、町家が2棟並んでいるような外観となっている1棟の新築建物

2 まちなみをつなぐ

金澤町家の知恵

地域の特性に応じたまちなみとする

金沢には、地域特性が感じられるまちなみが色濃く残っている地域があります。そのような地域を「伝統的建造物群保存地区」や「こまちなみ保存区域」、「景観地区」などに指定し、独自のルールを定め、歴史あるまちなみを後世へ引き継ぐ取組みを進めています。



どのような地域に指定され、どのようなルールがあるか確認しましょう。
⇒確認の方法はP46をご覧ください。

周辺の建物と壁の位置、軒の出、町人地 高さを揃える

隣接する建物と前面の壁の位置や軒の出、高さが揃っており、連続性と統一感のあるまちなみを形成しています。また、軒下の両端には、隣家からの延焼を防ぐソデウダツ（袖壁）が設けられている町家もあります。



通りに面する建物の壁面の位置を近隣と揃えることを意識してみましょう。



連続性に配慮された旧町人地のまちなみ

周辺の建物と塀や植栽の配置を武家地 揃える

旧武家地では、門塀や前庭の松などの植栽が多く見られます。隣接する建物と塀や庭の配置を揃えることで、連続性と統一感のあるまちなみを形成しています。



塀や庭の配置、シンボルツリーの植樹を意識してみましょう。



塀や前庭・植栽の統一感のある旧武家地のまちなみ

現代生活への工夫 | 室外機等の配慮

電気メーターや室外機などの設備機器は、設計段階から道路等の公共空間からの見え方に配慮した配置とし、正面に設ける場合は目隠しや色彩で工夫しましょう。



室外機を格子で目隠し

3 まちの歴史を継ぐ

金澤町家の知恵

地域の金澤町家の特徴を踏まえた外観デザインを取り入れる

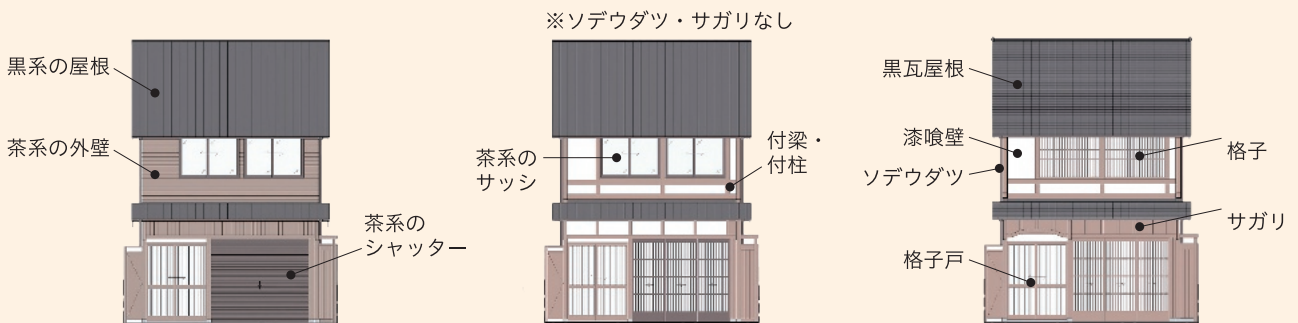
金澤町家は、町家、武士系住宅、近代和風住宅それぞれの外観意匠の特徴があります。金沢では、これまで各地域の歴史的文脈に即した建物とすることで、まちの歴史を受け継いできました。

建物のデザインに関するルールが強くない地域であっても、その地域特有の金澤町家に見られるデザインを取り入れ、金沢らしさを表現している事例もあります。



周辺の金澤町家はどのタイプ(町家、武士系住宅、近代和風住宅)が多いか確認してみましょう。伝統的な意匠の建物が多い地域では、特に、周辺の景観と調和する落ち着いたデザインや色彩とするよう意識しましょう。

町家系新築建物の外観イメージ



伝統的な意匠 少

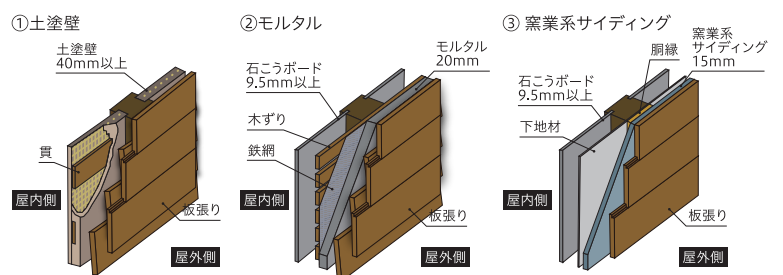
多



現代生活への工夫 | 準防火地域での建築

現在は、準防火地域でも、外壁に木を使用したり、柱・梁を見せる真壁構造が可能です。

また、防火構造の袖壁によって、正面開口部の防火設備を不要とすることもできます。金澤町家のソデウダツの知恵を現代版に活かしてみてください。



準防火地域での外壁への木材の設置方法例

地域の歴史を知り、引き継ぎましょう。

地域の歴史や特性を理解した上で建物を計画することで、まちの歴史を引き継ぎ、より魅力的な地域や住まいづくりに発展するとともに、歴史的な重層性につながります。

⇒お住まいの地域（伝統的建造物群保存地区やこまちなみ保存区域等）によっては、金澤町家の特徴を踏まえた外観デザインにした場合に、助成対象となることがあります。

詳細はこちらへ⇒



コラム

～まちに住む楽しさと意義～

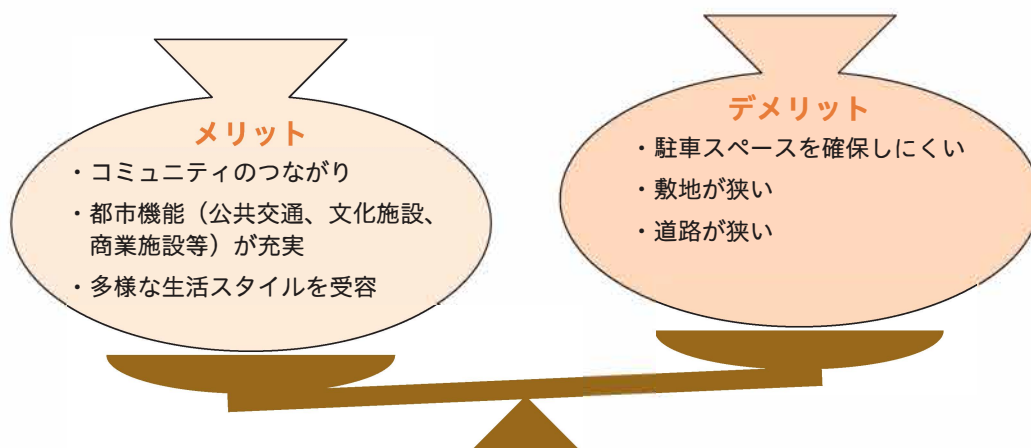
金沢工業大学 教授 宮下 智裕

金沢は戦災を免れたため、中心部には現在でも町家などの歴史的な建物が多く残った地域がたくさんあります。そこには他の都市にはない金沢らしい風情や景観が残り、特有の生活が営まれています。またそこには老舗も多く残り、近年では、町家を活用した新しい店舗も増えてきてまちの魅力を増加させています。さらに、古くから残る地域だからこそその地域コミュニティも受け継がれています。金沢らしい文化や風情を感じながら、近隣の人々と気軽に声を掛け合い、時には助け合いながらの暮らしは郊外ではなかなか生み出すことの難しい豊かさを与えてくれます。

一方で利便性はどうかという点、車がなくては不便を感じる事の多い郊外と比べて、公共交通も整っていたり、徒歩や自転車など自動車を持たなくてもいろいろな施設を使用することができるというメリットもあります。また、近年ではカーシェアリングなども進み始めています。これらはまちに住む際によく問題として挙げられる駐車場問題への解決にも繋がると考えられます。

歴史的な建物の残る地域でも、当然新しい建物も建っていきます。その際、新しい建物が歴史的なまちなみに上手く溶け込んでいたり、協調したデザインとなっていくことで、まちなみがより美しい景観となり地域自体の個性や魅力を高めていくことにもなります。そしてそれが住んでいる人たちにとっての誇りや愛着にもなっていくと思います。

まちなか居住のメリット・デメリット



指針 3

環境に配慮する

地球環境に寄り添い、省エネで健康に過ごす

◆ 金澤町家では…

雨雪が多く湿気のある金沢の風土や季節に対応するため、しつらえを整えたり、開口部の開閉などにより、室内を適切な温度や湿度に保ち、健康で快適に住まうための工夫が見られます。



◆ 現代では…

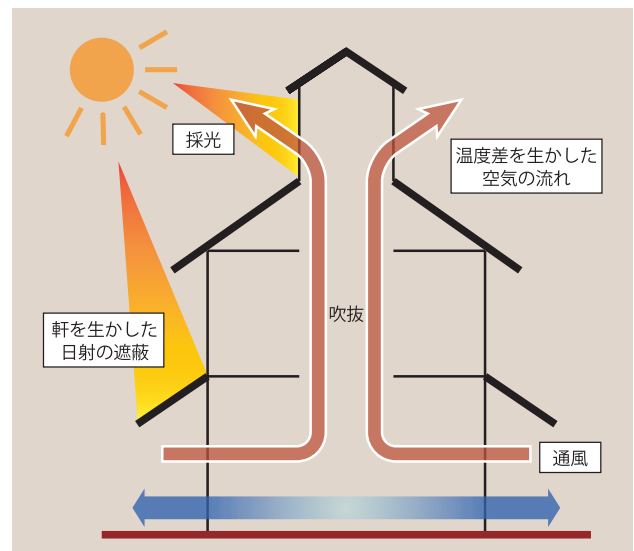
- 近年の地球環境に対する意識の高まりにより、環境負荷の軽減と持続可能なまちづくり、環境に配慮した快適な住まいづくりが求められています。
- 空調設備や断熱材といった現代の技術を取り入れながら、金澤町家に見られる先人の知恵を取り入れることで、自然を活かし、省エネルギーかつ長く健康に住み続けられる住まいづくりを行うことができます。



冷暖房に頼りすぎずに、住まいを工夫することで、
快適でエコな暮らしを楽しみませんか？

■ 金沢の気候の特徴

- 冬は日照時間が短く、積雪もある
- 年間を通して降水量が多い
- 夏は高温多湿で、冬も湿度が高い
- 年間雷日数が日本一多く、特に冬に多い



暑さ・寒さ対策のイメージ

① 風や光をコントロールする

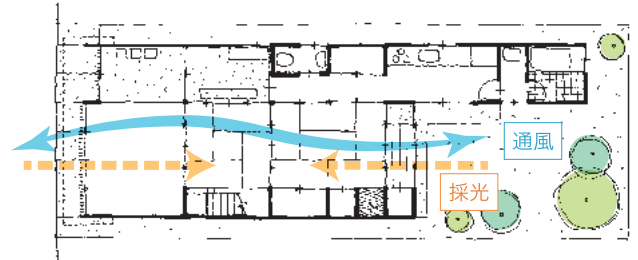
金澤町家の知恵

風や光の通り道を上手につくる

金澤町家では、吹き抜けや天窓、縁側などを設け、間取りを工夫することで、限られた敷地であっても、建物の奥まで風や光が通るようにし、夏は涼しく冬は暖かく過ごしてきました。



間取りを検討する際に、窓の位置による風や光の通り道を考えてみましょう。



町家の通風・採光のイメージ



障子を通して光を取り入れる



中庭に面した開口から風や光を取り入れる

庭の植栽で光の量を調節する

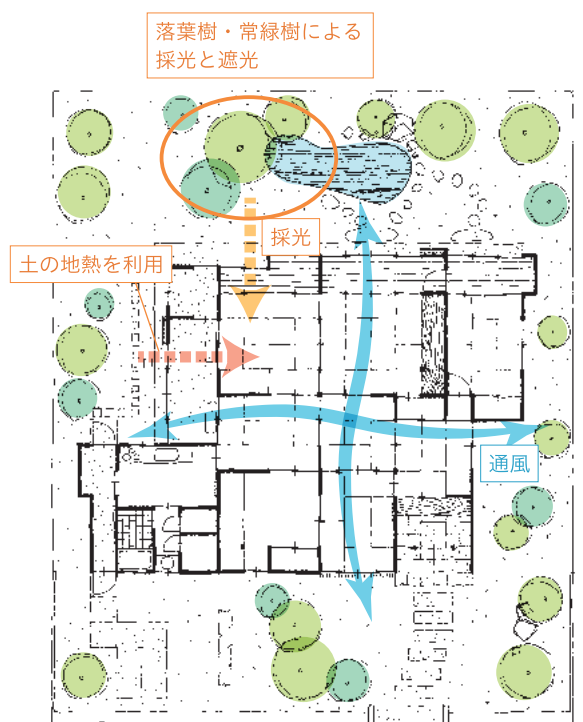
庭に樹木を植えることにより、夏は枝葉により日差しを遮り、冬は太陽光を取り入れることができます。



季節による変化が楽しめる落葉樹、管理しやすい常緑樹などを目的や場所に合わせて選んでみましょう。



庭の植栽

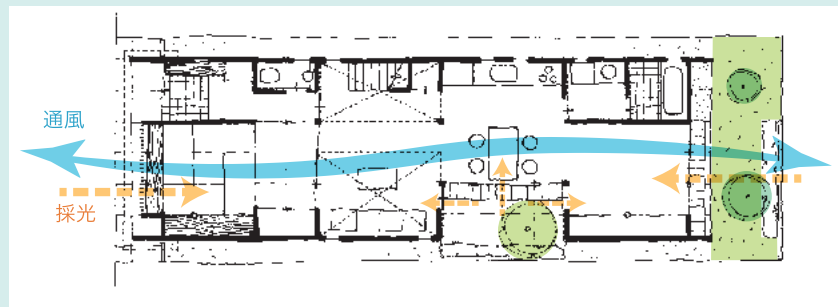
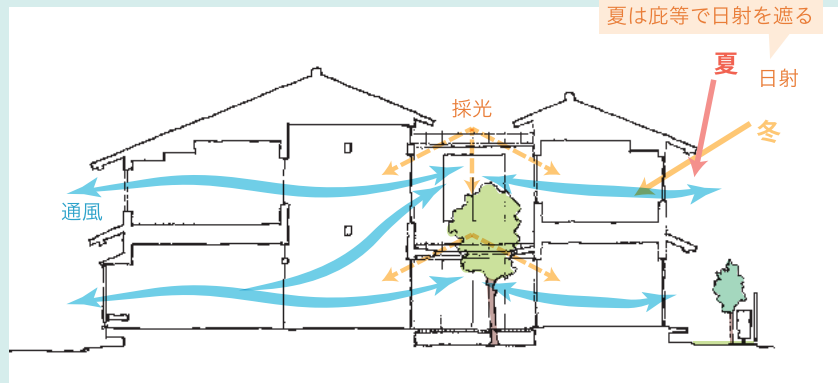


武士系住宅の通風・採光のイメージ

■ 季節によって日射や通風をコントロールできる

屋根の庇や庭の植栽により、季節によって変わる太陽の高さに対応し、効果的に日射を取り入れることで、冬でも明るく、暖かく過ごすことが期待されます。

また、間取りの工夫や風の通り道を作り、土間や庭を通った涼しい空気を取り入れ、すだれや格子、内部のブラインドをあわせて設置することで、夏には日射を遮り、涼しく過ごすことができます。

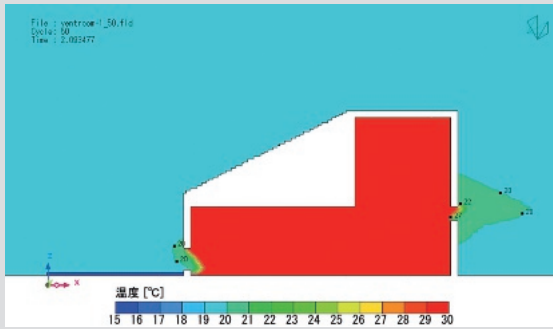


現代生活への工夫 | 断熱性能の向上

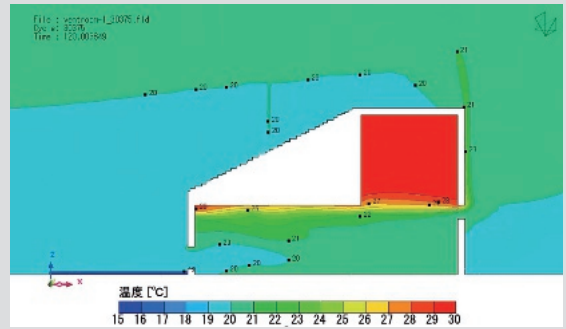
壁・床・天井に断熱材を入れ、開口部は断熱性能の高いサッシやガラスを使用することで、寒い冬も快適に住まうことができます。また、夏の日中は冷房による温度調整を行い、気温が下がる夜は窓を開けて自然風で過ごすなど、現代の技術を取り入れながら、金澤町家の知恵を活かすことが有効です。

吹き抜けによる温度差換気の効果

〈吹き抜けの開口部が低い位置の場合〉

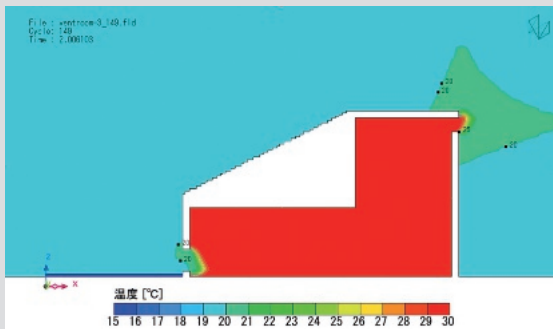


無風時
6秒後

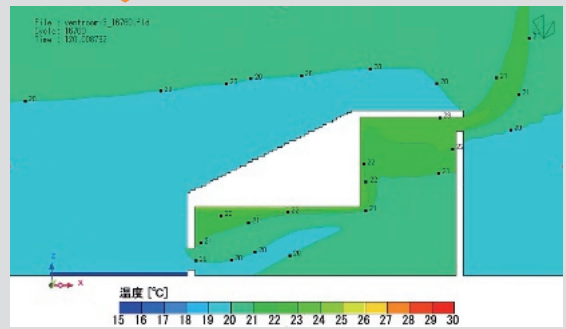


開口部の位置の高低差が
大きいほど換気効果大きい

〈吹き抜けの開口部が高い位置の場合〉



無風時
6秒後

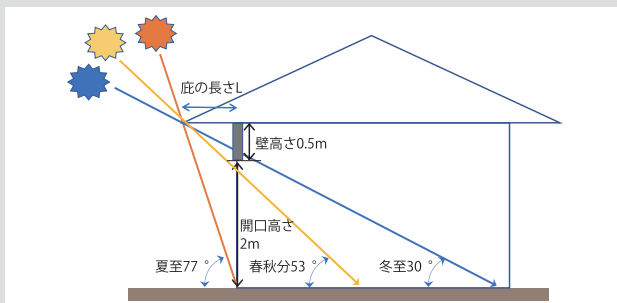


吹き抜けをすることで、室内の温度差により上昇
気流を生み出し、換気を促すことができます。

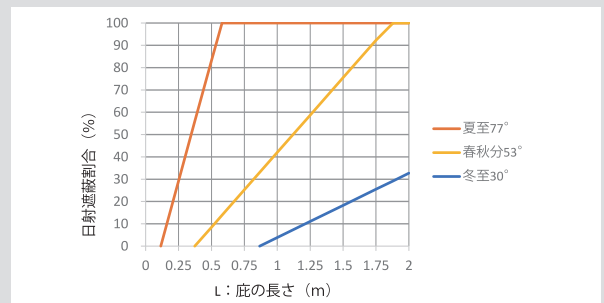
金沢工業大学 永野紳一郎教授 提供

庇の長さによる日射遮蔽率

庇を長くすると、日射遮蔽率が高くなり、特に夏の強い日差しに有効です。



金沢市の季節による日射角度



庇の長さ と日射遮蔽割合の関係

金沢工業大学 永野紳一郎教授 提供

② 雨や雪に対応する

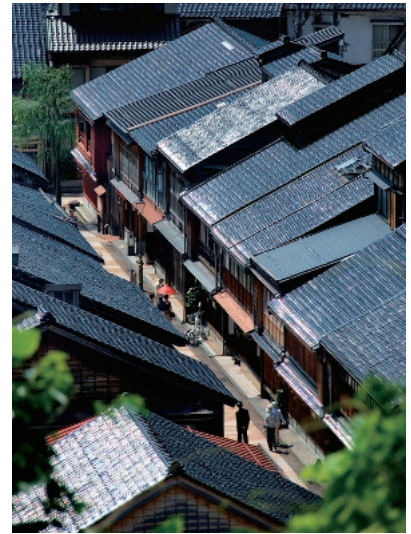
金澤町家の知恵

■ 勾配のある屋根にする

北陸特有の湿った重い雪で住宅が押しつぶされないよう、雪止めを付けた勾配屋根が適しています。



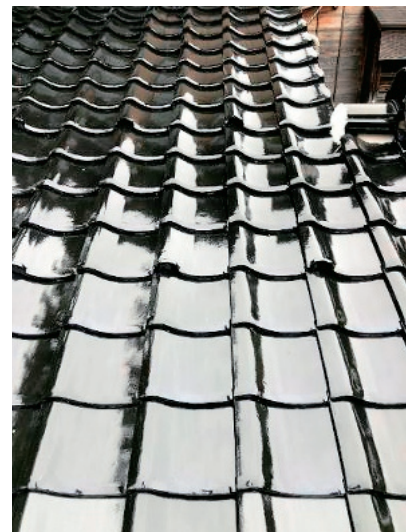
勾配や軒の高さを近隣建物と揃えると、まちなみの統一感にもつながります。また、屋根雪を隣家の敷地へ落とさない配慮も計画段階で検討しましょう。



勾配屋根の家並み

■ 釉薬瓦を使用する

かつての金澤町家の屋根は、板葺きの石置屋根が大半でしたが、明治以降に不燃材の瓦屋根が普及しました。釉薬瓦は水が浸透しにくく、経年劣化に強いとされています。金沢では特に黒色の釉薬が豊富に入手できたため、黒瓦が多く見られます。



釉薬瓦

■ 軒や庇の長さを工夫する

金沢は雨が多いため、ガラス窓が普及していない時代から、内部に雨が入らないよう軒や庇を深くすることで、雨の日でも窓を開けて風を取り入れたり、建物を劣化から守ってきました。



深い軒と庇

+ こんなメリットがあります！

■ 遮熱・結露防止効果があり、耐久性が高い

瓦屋根は、屋根下地と瓦の間に空間があり、外の熱が伝わりにくく、冬は湿気がこもらないため、結露しにくい構造となっています。

また、釉薬瓦は紫外線の影響を受けにくく、腐食が起こりにくいと言われています。他の屋根材に比べると価格は高めですが、耐久年数は約50～100年（スレート・ガルバリウムの屋根は約30年）です。瓦にひびや割れが発生しても、破損した瓦だけを交換することもできます。

■ 雨天時でも換気ができる

深い軒や庇とすることで、雨や雪が降っていても窓を開け換気をすることで、湿気を逃しカビ・ダニの発生やウイルスの繁殖を防ぎます。

| コラム

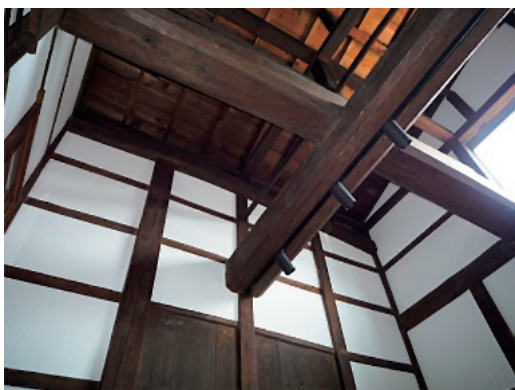
～金澤町家の省エネルギー性～

金沢工業大学 教授 永野 紳一郎

金澤町家が省エネルギーである点は次のように指摘できます。広い開放的な開口部とそれに面した庭による通風ができる点（ファンによる電力の削減）、自然採光を積極的に取り入れることにより照明電力が削減できる点（照明電力の削減）、土壁を主体としているため調湿性と蓄熱性に優れる点（エアコンなどの運転エネルギーの削減）、木材や土という自然素材をベースにしている点（再利用可能で持続可能な材料）です。

また、庭を介した空間設計は、外気を冷却する効果もあり、夏の過ごしやすさを目指したものとと言えます。さらに、換気の良いことや自然素材が多用されることは、シックハウスのような化学物質による健康被害を避けることができる点で優れています。金澤町家で用いる建材は、地産地消ができる自然素材を使用する点で環境負荷の影響が少なく、修繕が容易にできるために、省資源の点で優れています。

このような金澤町家の省エネルギーの知恵を少しでも取り入れていくことが、今後の地球環境負荷低減の視点においても重要になります。



金澤町家の吹き抜け空間

吹き抜け空間にある採光の明るさと空間の開放性、木造の構造美、土壁により得られる涼しさは町家ならではの魅力があります。

3 涼しさを演出する

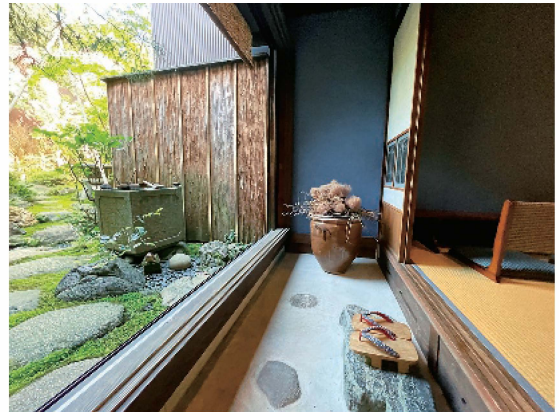
金澤町家の知恵

■ 土間を設け、涼しく過ごす

金澤町家には、玄関やトオリニワ（玄関から奥につながる通路）、中庭に面した空間に土間が設けられており、夏でも涼しく過ごしてきました。



土間の涼しい風が居室に流れるよう工夫してみましょう。逆に冬は寒いので、土間と居室の間に建具を設けましょう。

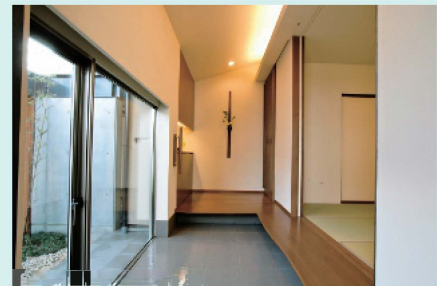


土間の地熱を利用

+ こんなメリットがあります！

■ 地熱を活かせる

夏は、土間で冷やされた空気が室内に入るため、夏でもひんやりとした涼しい空間とすることができます。



玄関土間と続く和室

～涼しさが感じられる暮らし方～

金沢には、昔から伝えてきた、暮らしの中での人への優しい心くばりやしぐさがあります。金沢市では、今の時代にも伝えていきたいしぐさを「金沢しぐさ」として登録しています。

「打ち水」も金沢しぐさの一つです。家の前に水をまくことで、気化熱で地面の表面温度や周辺の温度が下がり、窓から入る風が涼しくなります。打ち水にはお清めの意味もあり、お客様を迎える準備が整っていることを知らせる合図でもあり、おもてなしにつながります。

また、「風鈴」は、揺れる音色で涼しさを感じるとともに、リラックス効果をもたらします。こうした音による涼感の演出も考えた住まいづくりをしてみたいはいかがでしょうか。

⇒金沢しぐさについての
詳細はこちらへ



涼感を演出する風鈴

指針 4

四季を楽しむ

季節を感じる工夫をする

◆ 金澤町家では…

雨雪の日が多い金沢では、家の中にいながら四季を感じられるよう、庭と建物が一体的に作られ、暮らしに季節を取り入れてきました。



◆ 現代では…

- 限られた敷地でも、庭や庭を眺める空間をつくることで、自然を身近に感じ、四季を楽しむことができます。
- 季節の飾りや草花をしつらえる空間を設けることで、地域ならではの暮らしや伝統行事を楽しんだり、華やかな空間で来客を迎えることができます。



時間の流れが早い現代の生活の中で、季節の移ろいと
彩りが感じられる空間をつくってみませんか？



雪が積もる冬の金沢



庭と建物が一体的に作られた武家住宅

① 四季を感じる庭と眺める場所をつくる

金澤町家の知恵

■ 庭を設ける

金澤町家では、都市部の限られた敷地の中でも庭を設け、簡素ながらも樹木を植え、裏庭や中庭から光を取り入れていました。



小さくても庭を設け、樹木や植物を植えましょう。



狭い空間でも工夫がほどこされた庭

■ 庭を縁側などから眺める

庭の景色を楽しめるよう、庭に面した縁側などの空間が設けられ、四季を身近に感じてきました。



庭を設ける際は、どこから眺めるかを意識してみましょう。



庭を眺める縁側

+ こんなメリットがあります！

■ 季節の移ろいを感じられる

花や樹木を庭に植えることで、季節の変化を家にいながら楽しむことができます。また、季節によって変わる太陽光や風の温度や匂いの変化を、縁側空間で感じとることができます。



狭い空間で四季を感じられる庭

■ 地面の表面温度が下がり涼しく過ごせる

庭の地面がコンクリートやタイルの場合は熱をため込みやすいですが、土や植物にすることで、水やりや植物の蒸散によって空気が冷却され、気温を下げるすることができます。

② 季節のものを飾れる場所をつくる

金澤町家の知恵

■ 棚、床の間など飾れる場所を設ける

飾り棚や床の間などに、四季の行事にあわせた植物や工芸品を飾ることで、家の中にいながら季節を感じたり、来客へのおもてなしを表現し、豊かな生活文化を営んできました。



現代の住宅においても飾り棚は多く用いられており、住まい手の個性が見られる空間となっています。ちょっとしたスペースを活用してみましょう。



床の間

+ こんなメリットがあります！

■ 華やかな空間で来客をもてなす

季節に応じた植物や工芸品を部屋に飾ると、空間が華やかになり、彩りある空間で来客を迎えることができます。会話のきっかけや話題となって、心地よいコミュニケーションにつながることを期待されます。



玄関に設けた飾り棚



リビングに設けた床



小さな空間に設置した飾り棚

③ 季節に応じたしつらえにする

金澤町家の知恵

■ 季節に応じて建具替えを行う

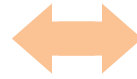
すど ふすま
簾戸や襖などの建具を用い、季節に応じて入れ替えて過ごしてきました。夏は簾戸で風の通り道をつくり涼しく、冬は襖で断熱し暖かくしています。



引き戸は、閉め切りにも開け放ちにもできます。冷暖房不要の季節に風が通るよう、引き戸を活用してみましょう。



冬の建具



夏の建具

■ 庭木に雪吊りをする

枝に縄を張る「雪吊り」では、水分を多く含んだ雪の重みで樹木の枝が折れないような工夫がされています。



大切な木だけでも雪吊りをして、雪から庭木を守りましょう。職人をお願いするだけでなく、自分で雪吊りや庭の手入れするのも楽しみ方の一つです。



雪吊り

+ こんなメリットがあります！

■ 季節に合わせた生活環境を確保できる

季節ごとのしつらえを取り入れることで、快適な生活環境をつくることができます。

また、建具替えを行わない場合でも、雪見障子（下半分がガラス）や月見障子（上半分がガラス）と可動式の障子を組み合わせることで、季節に応じて窓の外の景色を楽しむこともできます。



月見障子を取り入れたリビング

指針 5

長く大切に使う

長く住み続けられるよう工夫する

◆ 金澤町家では…

ふすま
襖や障子などで部屋を仕切ることができる間取りにより、季節や場面に応じて柔軟にレイアウトを変えることができます。また、木をはじめ、土や紙など様々な自然素材がふんだんに使われ、修繕を丁寧に行いながら、大切に住み続けてきました。

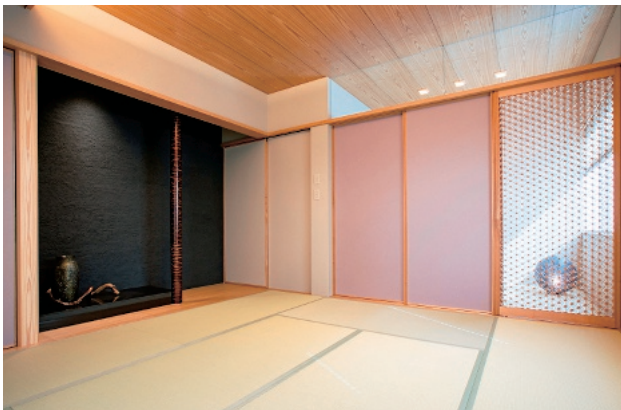


◆ 現代では…

- レイアウトを柔軟に変えて使える空間や仕掛けをつくることで、ライフスタイルやライフステージの変化に対応でき、長く住み続けることができます。
- 木造はメンテナンスがしやすいことに加え、木の香りや調湿など様々な楽しみ方や効果があります。また、古材や古建具などは再利用することもできます。
- 現代の技術や新しい素材を使いつつ、部分的にでも自然素材を取り入れることで、経年変化も楽しめます。



自然素材の良さを活かした空間づくりで豊かな生活を送りませんか？



格子を取り入れ、ゆるやかに空間を仕切る



木製の家具を長く使う

① 長く住まう工夫をする

金澤町家の知恵

可動式の戸で空間を柔軟に使う

リビングやダイニングなどの用途が決まっていない部屋の使い方をし、間仕切りは、襖や障子、簾すだれなど、可動式で簡単に取り外しもできる建具が多く使われています。



引き戸や可動式の家具などで、空間の多様な使い方ができるようにしましょう。



引き戸の開け閉めによる柔軟な空間利用

暖簾、屏風で緩やかに視線を遮る

間仕切りは、建具以外にも、必要に応じて、暖簾や屏風、ついたてなどの道具類を用いて、視線を遮り緩やかに仕切る工夫もあります。



場所に応じた家具やパーテーションを活用しましょう。



簾（すだれ）で緩やかに空間を仕切る

+ こんなメリットがあります！

■ 暮らしのシーンやライフステージの変化に対応できる

空間を広く使いたい時は戸を開放し、来客時は閉めて客間として使用したり、世帯構成や子どもの成長に応じて柔軟に空間の仕切りを変えたり、多様な使い方ができます。特に、まちなかの限られた敷地では、空間を有効に活用できます。

■ 家族の気配を感じながら生活できる

場所に応じた建具や道具類を選択することで、緩やかに視線を遮りつつ、家族の気配を感じながら生活することができます。

2 自然素材の質感・変化を楽しむ

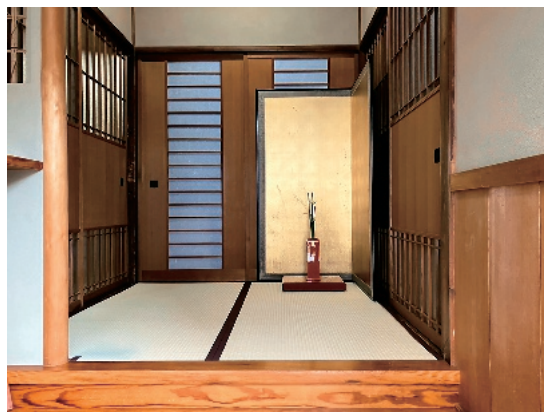
金澤町家の知恵

自然素材を取り入れる

木をはじめ、石や土、竹、漆喰、紙（障子）、いぐさ（畳）などの自然素材がふんだんに使われています。また、地元産の材料も多く使われてきました。



現代の住宅には、樹脂や疑似木材などの人工的な素材や、接着剤など化学製品が使われることが増えていますが、肌に直接触れる仕上げの部分を中心に自然素材を使うなど、適材適所で使い分けましょう。



自然素材で構成されている玄関

+ こんなメリットがあります！

化学物質の少ない健康的な居住環境ができる

自然素材を使うと化学物質によるリスクが抑えられ、木やいぐさの香りがリラックス効果をもたらします。

調湿、断熱効果が高まる

木や土壁、漆喰、畳、和紙などは、空気の湿度が高い時には湿気を吸収し、乾いた時には放出して自然に室内環境を調節するとともに、断熱効果もあります。

素材の質感や香り、経年変化を楽しむことができる

本物の材料を使うことで、素材本来の質感や風合い、経年変化による味わいや美しさを楽しめます。

床や壁、窓、戸、柱など、部分的にでも自然素材を取り入れましょう。



木を使った浴室



自然素材を取り入れた玄関

③ 木を使う・木を活かす

金澤町家の知恵

■ 木造の軸組構造で建てる

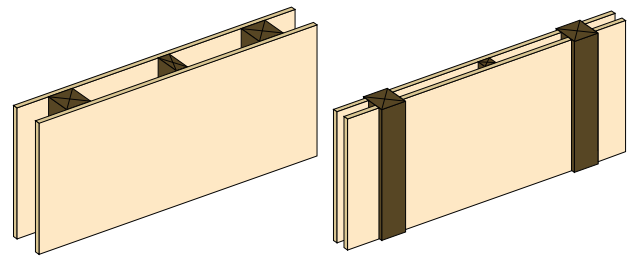
柱と梁を使い建築する構造を「軸組構造」といいます。現在、軸組構造での新築は筋交いや構造用合板で壁量を確保する在来工法がほとんどですが、金澤町家は、柱と梁による木組によってしなやかに揺れながら地震エネルギーを吸収する伝統構法で建てられています。



現在は伝統構法で新築することも可能です。伝統構法での建築は、職人の技の継承につながるとともに、市内でも希少な建物となります。

■ 真壁づくりで造る

壁の施工方法は、現代の住宅の多くは、柱などの構造体を壁で覆う「大壁づくり」が多いですが、金澤町家を含む伝統的な日本家屋は、柱や梁を隠さずに見せる「真壁づくり」でつくられていました。



大壁づくりと真壁づくり



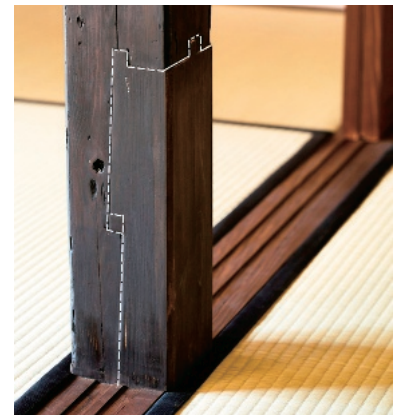
木の柱や梁を見せるデザインで、木のぬくもりを感じる家にしましょう。

■ 傷んだ部分は補修して使う

木は湿気や水気にさらされると腐朽し、シロアリの被害を受けることもあります。傷んだ部分を新材に取り替えるなど、補修を繰り返すことで長く使ってきました。



補修をしながら長く大切に使いましょう。



傷んだ部分を補修して使用

■ 古材、古建具、古家具を再利用する

かつては、金澤町家を解体や移築したりする際には、古材や古建具を保管し、建築時に再利用していました。また、職人が作った古建具や古家具には、高品質な素材や高い技術力が詰まっています。



古材や古建具などを趣きのあるインテリアとして活かしましょう。



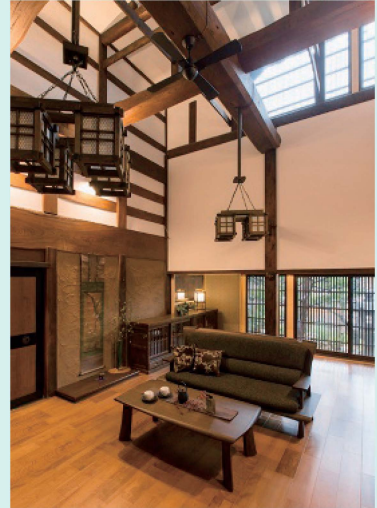
古家具を活用

■ メンテナンスや増改築がしやすい

木造軸組構造の真壁づくりとすることで、腐朽した部材の取り替えや壁の塗り替えなど構造躯体とそれ以外の部分的な修繕がしやすく、また増改築もしやすくなります。

■ 木の質感や経年変化を感じられる

真壁づくりで柱や梁の木を見せることで、木の質感や風合いを感じて生活することができ、年月とともに木の色合いの変化を楽しむことができます。



木の柱や梁を見せた内装

■ 物を大切につかうことの良さを知れる

古材や古建具、古家具を再利用することで、趣きのある空間になるとともに、使い捨てではなく、物を大切に使うことの理解が深まり、廃棄物の削減や循環型社会に貢献することにつながります。



建具をリメイクして使用

📝 おねがい

地産地消に協力しましょう。

金沢産の木材資源の利用促進を図るため、木のある暮らしづくりを奨励しています。金沢産の木材を使うと、森林の適正な維持管理や林業の活性化、木材の運搬に伴う二酸化炭素排出量の削減につながります。柱や内外装材、木塀などに金沢産の木材を利用し、地産地消に協力しましょう。

⇒石川県産材や金沢産のスギ柱を使用し、木造の住宅を建築する場合の助成制度もあります。

詳細はこちらへ⇒



～木造で建てること～

金沢は歴史文化資産や伝統工芸など木を用いた多様な文化が息づいており、市内の建物の約8割は木造です。木造は、地震の多い日本で発達してきた建築技術であり、現在建築されている木造建築はすべて耐震性の基準を満たしています。

金沢市では、まちなみや生活に木を幅広く取り入れる「木の文化都市」の継承と創出を目指しています。住宅を木造で建て、木を使うことにより、金沢らしいまちなみを一緒に作りませんか。

指針 6

和を嗜む^{たしな}

匠の技を取り入れ、生活文化を楽しむ

◆ 金澤町家では…

様々な職人の技が集結されており、生活やおもてなしの空間としての和室があり、生け花や茶の湯などを嗜む文化が息づいています。

◆ 現代では…

- 畳や木材など、用途に応じた床素材を選択することで、過ごしやすい環境をつくったり、座位と椅子座による視線の異なりを楽しむことができます。
- 内装や建具、装飾などに伝統技術を取り入れることで、職人の技を身近に感じられるとともに、生け花や茶の湯などを気軽に嗜んだり、来客へのおもてなしの心を表現することができます。



和の文化を身近に楽しむ暮らしをしてみませんか？



和室



茶の湯

① ゆかざ 床座での生活を楽しむ

金澤町家の知恵

■ 畳を取り入れる

畳敷きの部屋と板の間を、用途に応じて使い分けられています。

畳は裏返し（たたみおもて）（畳表をひっくり返して貼り直すこと）や表替え（畳表を新品に交換すること）を繰り返すことで、長く使うことができます。



本格的な座敷からリビングの一角の畳スペースなど、ライフスタイルに合わせて畳を取り入れましょう。



座敷

+ こんなメリットがあります！

■ 保温、断熱、調湿効果が高まる

いぐさ畳はいぐさや藁が空気を多く含んでいるため、保温性や断熱性に優れています。また、畳表は水分を吸収・放出するため調湿効果があります。

一方、和紙畳には調湿効果はありませんが、耐久性や撥水性に優れ、手入れがしやすいというメリットがあります。適材適所で使い分けましょう。

■ 子どもや高齢者も安全に生活できる

畳はクッション性があるため足腰の負担が少なく、座ったり寝転んだりすることができます。また、転んでも衝撃を吸収し、吸音効果もあるため、小さな子どもがいるご家庭でも安心です。

■ 視線の変化を楽しめる

椅子座と床座の両方の空間があることで、様々な視線の高さを楽しむことができます。また、床座は視線が低いため、天井高さを低く抑えることができ、冷暖房の効率も上がります。



ダイニングと続く畳のリビング



新築住宅での座敷



畳スペースの設置

2 匠の技を楽しむ

金澤町家の知恵

職人の技を取り入れる

金澤町家には大工をはじめ、瓦、左官、畳、建具、造園、石工など、様々な職人の技術が集結されています。それらは、デザイン性と機能性を兼ね備え、時には遊び心のある工夫もされています。



現代的なデザインと職人の技を融合させ、魅力的な空間づくりを楽しみましょう。



釘隠し

壁や天井を工夫する

部屋の格式や用途に応じて、壁は土壁に紅殻色や群青色などを塗り、天井は竿縁天井や網代天井、格天井など様々な様式や材料を採用するなど、趣向を凝らしてきました。



クロス以外に様々な素材・デザインを部分的に取り入れてみましょう。



網代天井

障子を取り入れる

障子は、戸をはじめ、欄間（戸と天井の間）や壁の開口部などに組み込むことで、室内に柔らかな光を取り入れてきました。



障子を通した柔らかな光や和紙の風合いを楽しみましょう。



障子と塗り壁

+ こんなメリットがあります！

職人の技術を感じる

長い年月をかけて発展・継承されてきた職人の技術や技能を楽しめます。

📝 おねがい

職人技術の継承を応援しましょう。

機械化や工場製品の普及等により、伝統的な建物に携わる職人は年々減少しています。エシカル消費（人・社会・地域・環境に配慮した消費）の一環として、新しい住宅にも積極的に職人技を取り入れることで、技術の継承と人材育成にもつながります。

③ 伝統的な生活文化を楽しむ

金澤町家の知恵

■ 掛け軸や工芸品を楽しむ空間をつくる

金沢は伝統工芸や美術を楽しむ文化が息づいており、座敷に床の間を設け、床柱や床框に趣向を凝らし、掛け軸や工芸品などを飾ってきました。



伝統的な床の間に限らず、玄関などに飾り棚を設けたり、壁面に工芸品を飾るなど、現代的なしつらいでも空間の演出を楽しみましょう。



掛け軸や生け花

■ 生け花や茶の湯を生活に取り入れる

金沢は生け花や茶道を嗜んでいる人が多く、床の間や玄関に生け花を飾ったり、住まいに茶室を設けたりするなど、日常生活に取り入れています。



伝統的な茶室に限らず、気軽に茶の湯や生け花を楽しみましょう。

+ こんなメリットがあります！

■ 文化に触れ、豊かな日常を味わえる

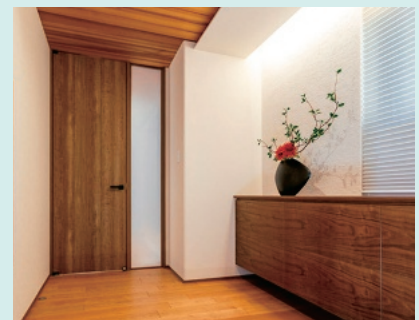
掛け軸や工芸品、生け花、茶の湯などの「嗜み」を日常に取り入れることで、生活に潤いを与え、豊かな気分になります。



季節の工芸品

■ 人への心配りを大切できる

生け花は、住まい手が楽しむのはもちろんのこと、玄関や客間空間に彩りを添えることで、来客者へのおもてなしにもなります。



玄関に飾った生け花

■ 計画の流れ

Step1 まちを知る、金澤町家を知る

まちを知る

- 地域の歴史や文化を調べてみましょう。
- 周辺の建物の特徴を観察しましょう。
- まちづくりのルールを確認しましょう。

⇒まちづくりや景観のルールは「まちづくり支援情報システム」で確認できます。他に、融雪装置のある道路などの確認もできます。



金澤町家を知る

- 本ガイドラインで金澤町家の特徴や現状を知りましょう。

⇒金澤町家に関する詳しい情報は「金澤町家保全活用推進基本方針」や金澤町家情報館ホームページでも確認できます。



Step2 暮らしをイメージする

- どのような暮らしがしたいか、ライフスタイルやライフステージを考えながらイメージを膨らませてみましょう。

Step3 建物を計画し、建てる

- 建物の設計を進めながら、次ページの「かなざわ新町家チェックリスト」を参考に、金澤町家のどの知恵を取り入れられそうか確認してみましょう。
- 現代の技術と上手く組み合わせ、安全で快適な暮らしを実現しましょう。
- 地域や建物の仕様、用途によって、行政からの支援が受けられる場合があります。

⇒住宅支援制度に関する詳しい情報は金沢市ホームページ等で確認できます。



Step4 まちに住まう

- 地域住民との交流や金沢の生活文化、四季の移ろいを楽しみ、長く快適に暮らしましょう。

かなざわ新町家チェックリスト

指針	設計のポイント	金澤町家の知恵	ページ
指針1 まちに 住まう	① 空間の連続性に配慮する	<input type="checkbox"/> まちの連続性に配慮した配置とする <input type="checkbox"/> 庭の配置を隣地と合わせて設ける	13 14
	② 交流を楽しむ空間をつくる	<input type="checkbox"/> 庇や下屋などで軒下の半屋外空間をつくる <input type="checkbox"/> まちに開いた半公共空間をつくる <input type="checkbox"/> 土間空間を活かす	15
	③ まちの気配を感じる	<input type="checkbox"/> 格子を設ける	16
指針2 まちなみに とけこむ	① まちの地割を活かす	<input type="checkbox"/> 地割を活かしたスケール感とする	19
	② まちなみをつなぐ	<input type="checkbox"/> 地域の特性に応じたまちなみとする <input type="checkbox"/> 周辺の建物と壁の位置、軒の出、高さを揃える <input type="checkbox"/> 周辺の建物と塀や植栽の配置を揃える	20
	③ まちの歴史を継ぐ	<input type="checkbox"/> 地域の金澤町家の特徴を踏まえた外観デザインを取り入れる	21
指針3 環境に 配慮する	① 風や光をコントロールする	<input type="checkbox"/> 風や光の通り道を上手くつくる <input type="checkbox"/> 庭の植栽で光の量を調節する	25
	② 雨や雪に対応する	<input type="checkbox"/> 勾配のある屋根にする <input type="checkbox"/> 釉薬瓦を使用する <input type="checkbox"/> 軒や庇の長さを工夫する	28
	③ 涼しさを演出する	<input type="checkbox"/> 土間を設け、涼しく過ごす	30
指針4 四季を 楽しむ	① 四季を感じる庭と眺める場所をつくる	<input type="checkbox"/> 庭を設ける <input type="checkbox"/> 庭を縁側などから眺める	33
	② 季節のものを飾れる場所をつくる	<input type="checkbox"/> 棚、床の間など飾れる場所を設ける	34
	③ 季節に応じたしつらえにする	<input type="checkbox"/> 季節に応じて建具替えを行う <input type="checkbox"/> 庭木に雪吊りをする	35
指針5 長く大切に 使う	① 長く住まう工夫をする	<input type="checkbox"/> 可動式の戸で空間を柔軟に使う <input type="checkbox"/> 暖簾、屏風で緩やかに視線を遮る	37
	② 自然素材の質感・変化を楽しむ	<input type="checkbox"/> 自然素材を取り入れる	38
	③ 木を使う・木を活かす	<input type="checkbox"/> 木造の軸組構造で建てる <input type="checkbox"/> 真壁づくりで造る <input type="checkbox"/> 傷んだ部分は補修して使う <input type="checkbox"/> 古材、古建具、古家具を再利用する	39
指針6 和を嗜む	① 床座での生活を楽しむ	<input type="checkbox"/> 畳を取り入れる	43
	② 匠の技を楽しむ	<input type="checkbox"/> 職人の技を取り入れる <input type="checkbox"/> 壁や天井を工夫する <input type="checkbox"/> 障子を取り入れる	44
	③ 伝統的な生活文化を楽しむ	<input type="checkbox"/> 掛け軸や工芸品を楽しむ空間をつくる <input type="checkbox"/> 生け花や茶の湯を生活に取り入れる	45

III 参考プラン

設計事例 1

設計事例 2-1

設計事例 2-2

設計事例 3

敷地設定

間口が狭く、奥に長い敷地割で、敷地背面に庭を設けている金澤町家が建ち並ぶまちなみが魅力的な地域です。

設計のコンセプト

庭空間の配置を周辺と揃えることで、お互いの緑地空間を豊かにし、限りある敷地を有効に活用しています。

車庫、物置、家事室を設け、子育て世代の生活にも対応しつつ、車庫の出入口は格子戸を設け、軒の出・下屋を近隣の金澤町家と揃えることで、まちなみにとけこむ外観となっています。

住み手の設定

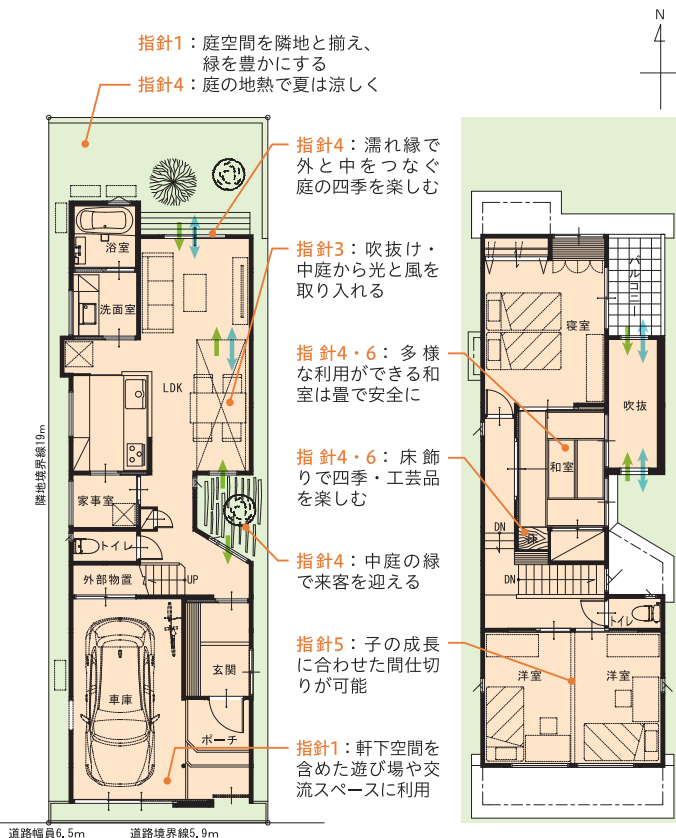
4人家族 (夫30代 会社員 / 妻30代 会社員 / 子供8歳、6歳)
共働き子育て世代の家族

平面プラン

Aプラン：南向き

敷地方位・間口幅に対応が可能な中庭型プラン

吹抜の高窓から採光が確保されるので様々な敷地方位や、間口幅に対応可能な間取り



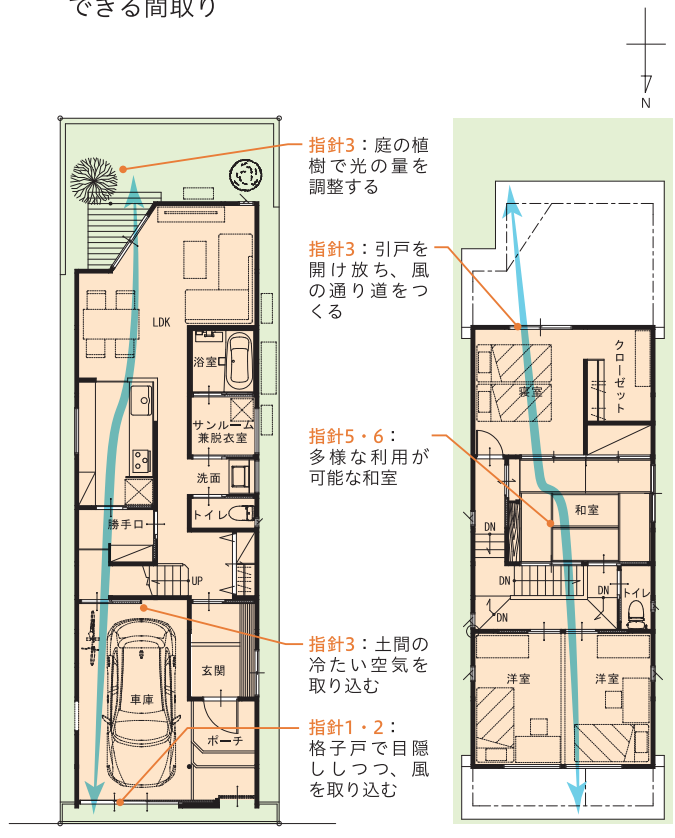
1階 平面図

2階 平面図

Bプラン：北向き

中庭なしのシンプルプラン

2階はシンプルな平面プランで、和室は独立した室・寝室の続き間・子供の遊び室など、多目的な利用ができる間取り



1階 平面図

2階 平面図

凡例 : 通風 : 採光

外観イメージ

大屋根・下屋・格子戸を設け、1階外観に木を使用し、通りを歩く人が金澤町家と一体となったまちなみを感じる外観

αプラン

1階は下見板張り、2階は付柱を見せ、金澤町家の意匠を感じる外観



βプラン

1階は羽目板張り、2階の窓はシャープに現代的な雰囲気も併せ持つ外観

内部イメージ

指針6：障子から柔らかな光を取り入れる

指針4：リビングから庭を眺める

指針6：塗壁で温かみを醸し出す

指針5：床材で、木の質感を感じる



指針3：吹抜けから光と風を取り込む

指針5：部分的に木を使い、経年変化を楽しむ



設計のポイント

指針1 | まちに住まう

車庫に格子戸を設け、まちなみに配慮する。格子戸を開け放せば、広い軒下と一体に、道路に解放された土間空間になり、子供の遊び場や住民との交流の場など様々な利用ができる。庭の配置を隣地と揃えることで、通風・採光を効率的に取り入れつつ、庭の緑の豊かさが高まる。

指針2 | まちなみにとけこむ

大きな軒の出と下屋を設け、金澤町家と連続したまちなみをつなぐ。通りを歩く人の目線の高さを木仕上とし、1階は金澤町家の伝統的意匠を醸し出す外観としている。

指針3 | 環境に配慮する

庭と吹抜けから、風・光を効率よく取り入れる。庭の植栽で季節ごとに取り込む光を調整する。

指針4 | 四季を楽しむ

玄関・ダイニングからの「見せる中庭」とリビングから「使う庭」を設ける。濡れ縁やデッキで庭と室内をつなぎ、季節の移ろいを楽しむ。

指針5 | 長く大切に使う

和室と寝室を続き間にし、将来的な生活の変化に対応する。内装に木や塗壁を用い、自然素材の質感を楽しむ。

指針6 | 和を嗜む

2階に設ける和室は、床座で静かな時を過ごす場にもなる。床の間に生け花を飾り生活文化を楽しむ。障子から、柔らかな光を取り入れる。

設計要件・建物規模

敷地面積 (㎡)	112.1
間口 (m)	5.9
前面道路幅員 (m)	6.5
建築面積 (㎡)	A : 73.00 B : 77.10
1階床面積 (㎡)	A : 68.00 B : 70.43
2階床面積 (㎡)	A : 54.46 B : 57.41
延床面積 (㎡)	A : 122.46 B : 127.84
用途地域	第一種住居地域
指定建蔽率 (%)	80
指定容積率 (%)	200
防火規制	準防火地域

敷地設定

狭い敷地で建つ金澤町家が密集し、多くは専用住宅として利用されるなか、昔からの地域密着の店舗も点在している地域です。近年、金澤町家を活用した来訪者向けの店舗も出店し、多様な可能性を秘めた地域です。

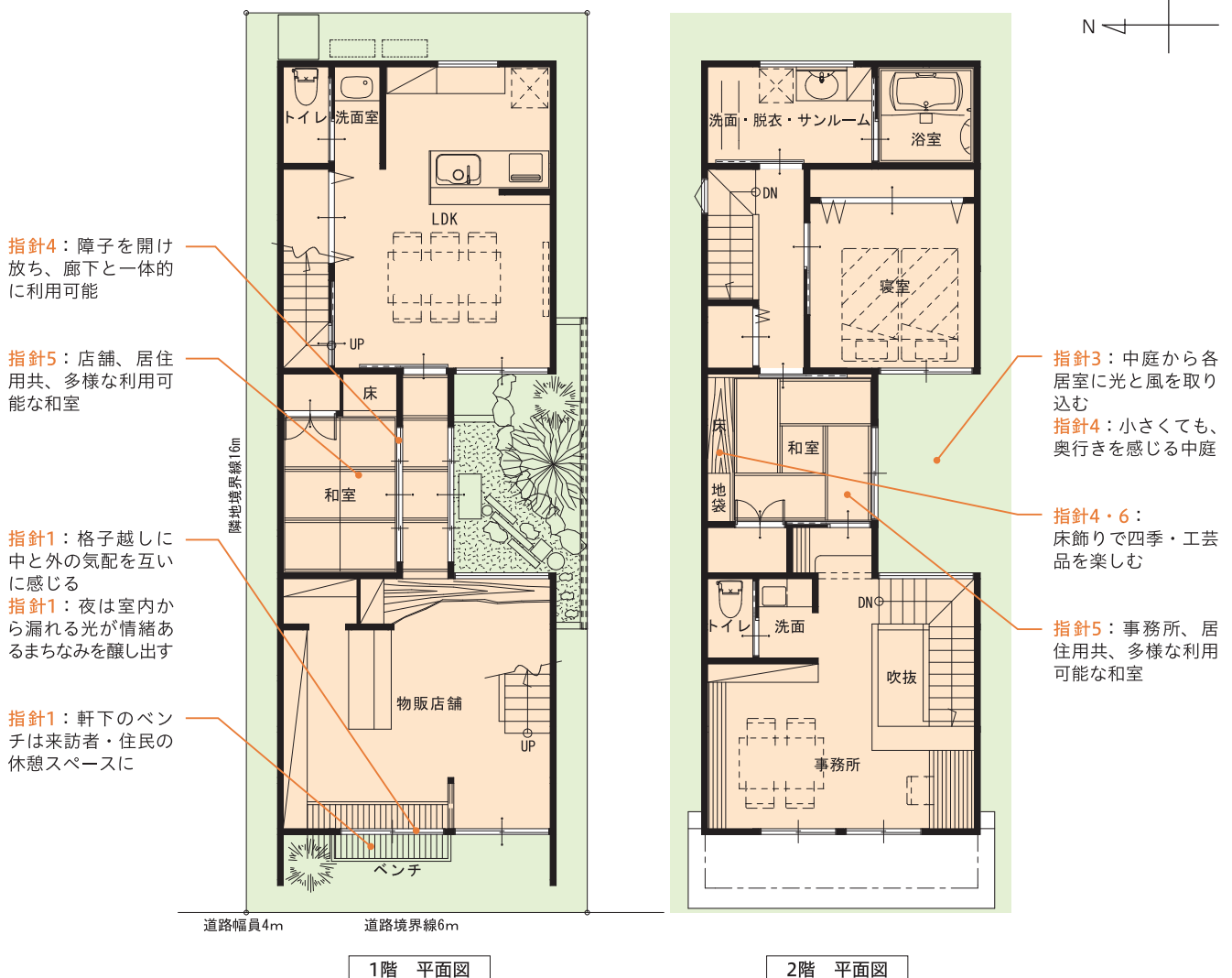
設計のコンセプト

夫婦の職場と住居併用の建物で、まちに根ざした生活を送れます。1・2階とも道路に面した部分は職場スペース、奥は住居スペースとし、その間には緩衝空間として、職・住どちらにも利用可能な和室でつなぎ、コンパクトな建物ながら、多様な住まい方ができます。

住み手の設定

2人家族（夫40代 2階で設計事務所を経営／妻40代 1階で店舗を経営）
夫婦で、それぞれの事業独立を実現

平面プラン



外観イメージ

伝統的建造物群保存地区、こまちなみ保存区域などでは、新築・改修で補助の対象となります。

αプラン

下見板張り、木製格子を設け、金澤町家と同様な外観



βプラン

大屋根と1階庇位置を周囲の金澤町家に合わせ、2階は横ラインを強調するデザインで、金澤町家が建ち並ぶまちなみをつなぐ。

内部イメージ

指針5：柱・梁を見せ、木の質感を感じる

指針6：塗壁で上品な店舗空間に

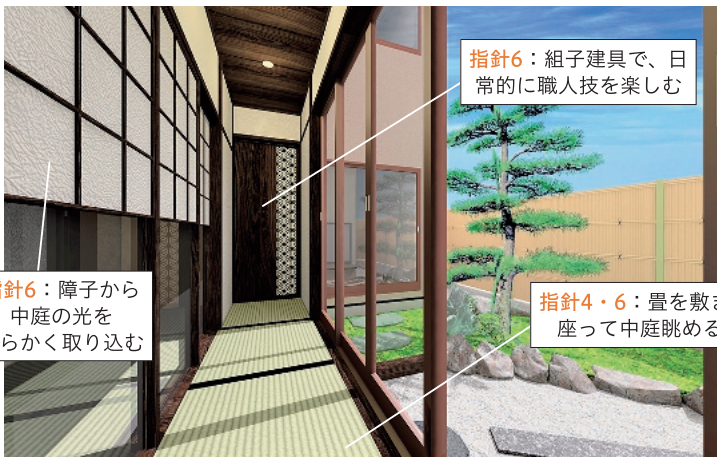


指針3：吹抜けから風と光を取り込む

指針5：のれんで緩やかに空間を仕切る

指針6：組子建具で、日常的に職人技を楽しむ

指針6：障子から中庭の光を柔らかく取り込む



指針4・6：畳を敷き、座って中庭眺める

設計のポイント

指針1 | まちに住まう

道路に面した格子は、店舗とまちとの気配が互いに感じられ、夜は格子から漏れる光が情緒あるまちなみを醸し出す。大きな軒下にベンチを設けて、住民や来訪者の休憩スペースとして半屋内空間をつくる。

指針2 | まちなみにとけこむ

現代的なデザインであっても、大屋根と1階庇位置を周囲の金澤町家に合わせ、金澤町家が建ち並ぶまちなみをつなぐ。

指針3 | 環境に配慮する

全ての居室を中庭に面し、狭い敷地でも光を取り入れる。正面格子から建物の奥まで風が通り、軒を出すことで室内に雨が入りにくい工夫する。

指針4 | 四季を楽しむ

和室には床の間を設け、季節の工芸品や生け花で季節を感じる。廊下を兼ねる縁側には畳を敷き、室内から庭を眺める。

指針5 | 長く大切に使う

木造の構造を感じる内装とし、木の質感や経年変化を楽しむ。1・2階の和室は、将来の店舗・事務所部分の拡張や家族構成の変化など、将来にも対応できる計画となっている。

指針6 | 和を嗜む

和室・廊下に畳を敷き、保温効果・安全性を高める。1階和室と廊下間に障子を用い、中庭の光を柔らかく取り入れる。建具一部を組子建具にし、職人技を楽しむ。

設計要件・建物規模

敷地面積 (㎡)	96
間口 (m)	6
前面道路幅員 (m)	4
建築面積 (㎡)	64.03
1階床面積 (㎡)	59.61
2階床面積 (㎡)	57.98
延床面積 (㎡)	117.59
用途地域	近隣商業地域
指定建蔽率 (%)	80
指定容積率 (%)	300
防火規制	準防火地域

敷地設定

狭い敷地で建つ金澤町家が密集し、多くは専用住宅として利用されるなか、昔からの地域密着の店舗も点在している地域です。近年、金澤町家を活用した来訪者向けの店舗も出店し、多様な可能性を秘めた地域です。

設計のコンセプト

まちに開けた店舗です。「トオリニワ」風の奥に続く通路は、住民や来訪者の憩いの場として開放できます。道路に開放される店舗は、通路や中庭との一体利用が可能で、多様なイベントにも柔軟に対応でき、地域の賑わい創出につながります。夫婦2人のコンパクトな生活は、限られた居住空間のなかでも、リビングの畳敷きで、リラックスして過ごせます。

住み手の設定

2人家族（夫50代 会社員／妻40代 1階でギャラリー兼カフェを経営）
夫婦共、様々な人との交流が好き

平面プラン

指針4・6：
床飾りで四季・工芸品を楽しむ

指針4：濡れ縁で外と中をつなぐ 庭の四季を楽しむ

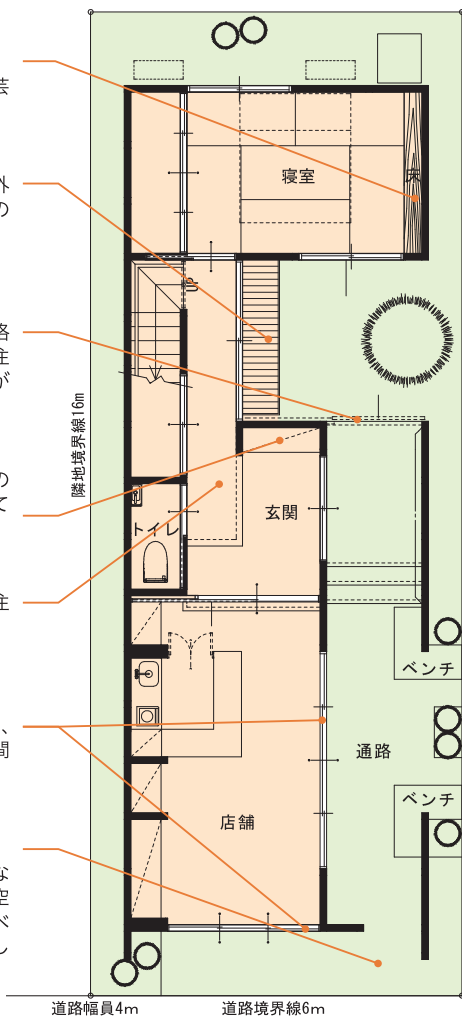
指針1：可動式の格子で、中庭は居住用・店舗用の利用が可能

指針6：季節のものを飾り、来客をもてなす

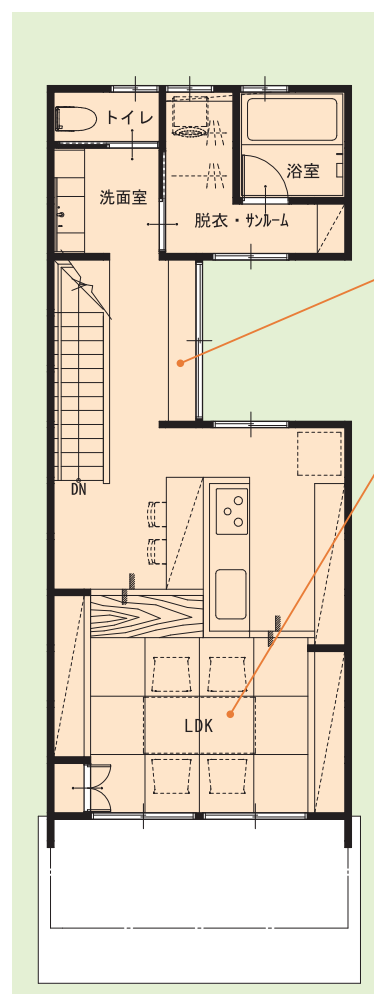
指針5：衝立で居住空間と仕切る

指針1：開け放つと、店舗と道路と軒下空間が一体的に利用可能

指針1・3：
トオリニワのような奥につながる土間空間。夏は涼しく、ベンチで交流の場として開放



1階 平面図



指針4：中庭を眺めるカウンター

指針6：床座でリラックスできる畳リビング

2階 平面図

外観イメージ

伝統的建造物群保存地区、こまちなみ保存区域などでは、新築・改修で補助の対象となります。

αプラン

東西の日射を遮る袖壁、風の吹き込みを防ぐ下がり壁など伝統的な要素を実用的に取り入れた外観



βプラン

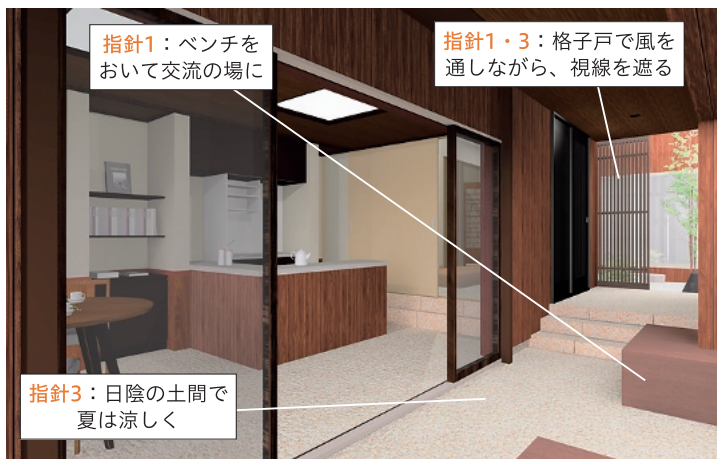
羽目板張りのほか、現代的な仕上材を使用しつつ、垂木を見せ、軒の連続性を強調する外観

内部イメージ



指針5・6：塗壁、木の質感を内装で楽しむ

指針5：引戸で、通路と軒下の一体利用が可能



指針1：ベンチを置いて交流の場に

指針1・3：格子戸で風を通しながら、視線を遮る

指針3：日陰の土間で夏は涼しく

設計のポイント

指針1 | まちに住まう

道路に面して大きな開口部を設け、まちに開けた店舗。「トオリニワ」風の通路、店舗と中庭は一体的な利用が可能で、様々なイベントや交流を楽しむ場として利用できる。

指針2 | まちなみにとけこむ

大きな正面開口部への風の吹き込み防止のために下がり壁を設け、伝統的な外観を実用的に取り入れる。軒裏は垂木を見せることで、金澤町家の軒を連続的につなぐ。

指針3 | 環境に配慮する

中庭を設け、風や光の通り道をつくる。店舗と通路の土間の地熱を利用し、夏は涼しい空間をつくる。外観に袖壁を設けて、東西の日射を遮る。

指針4 | 四季を楽しむ

和室には奥行き小さい床を設け、季節の工芸品や生け花で季節を感じるスペースを確保する。濡れ縁や2階のカウンターから、庭を眺めることができる。

指針5 | 長く大切に使う

外壁・内装に木を多く使用し、木の香り、質感、経年変化を楽しむ。

指針6 | 和を嗜む

リビングに畳を設け、限られたなかでもリラックスできる空間を作るとともに、床座と椅子座の視野の違いを楽しむ。

設計要件・建物規模

敷地面積 (㎡)	96
間口 (m)	6
前面道路幅員 (m)	4
建築面積 (㎡)	62.36
1階床面積 (㎡)	57.82
2階床面積 (㎡)	50.65
延床面積 (㎡)	108.49
用途地域	近隣商業地域
指定建蔽率 (%)	80
指定容積率 (%)	300
防火規制	準防火地域

設計事例 3

まちと程よい距離感で生活しつつ、まちなみをつなぐ専用住宅

旧武士地

敷地設定

武士系近代和風の金澤町家残り、ゆとりがある敷地には、道路に面して塀や植栽が連続するまちなみが魅力的な地域です。

設計のコンセプト

駐車スペースには門・塀を設け、その奥には道路から見える植栽で、まちなみを整えています。格子の塀は、通風を確保しつつ、プライベート空間を確保する一方、玄関横に設けた和室は、住民との交流の場にもなり、まちと程よい距離感で生活できます。多面的に窓を設けているため平面プランを左右反転させ、様々な敷地方位に対応できる間取りになっています。

住み手の設定

3人家族（夫30代 会社員／妻20代 専業主婦／子供3歳）
将来、子供が増えることも想定

平面プラン

指針4：濡れ縁で外と中を繋ぐ庭の四季を楽しむ

指針3・4：コの字型の中庭で1日中光を取り入れる

指針6：壁面に生け花を飾り、来客を迎える

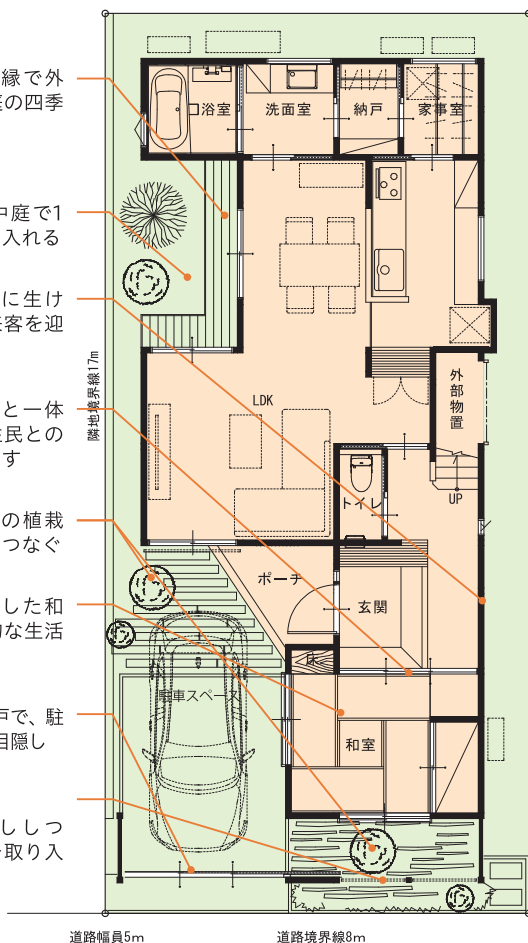
指針1：玄関と一体の和室は、住民との交流を生み出す

指針2：前庭の植栽がまちなみをつなぐ

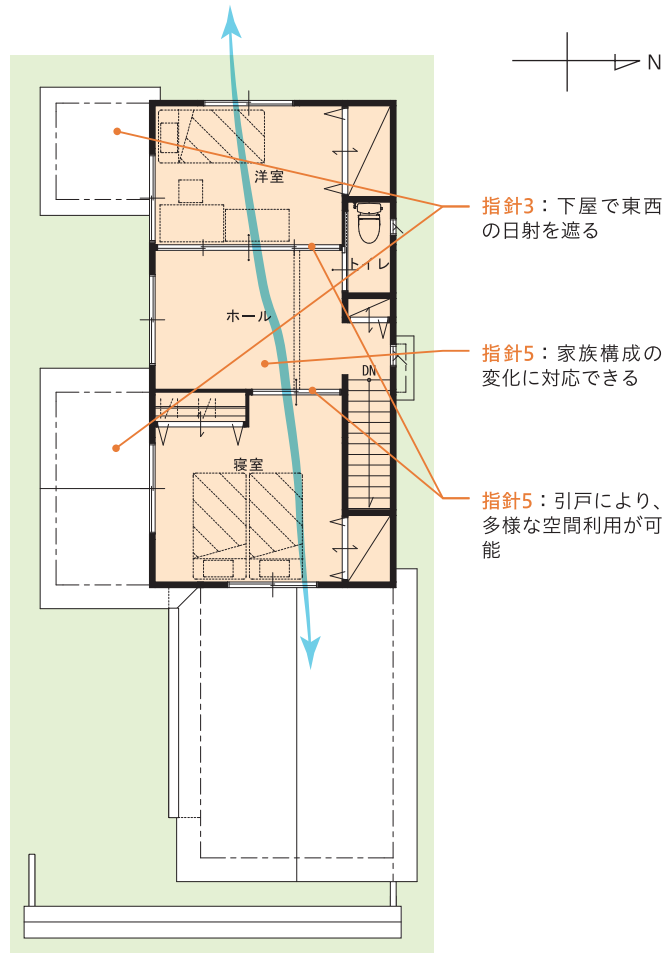
指針6：独立した和室で、伝統的な生活文化を楽しむ

指針1：格子戸で、駐車スペースを目隠し

指針1・3：格子で目隠ししつつ、風と光を取り入れる



1階 平面図



2階 平面図

凡例

↔ : 採風

外観イメージ

αプラン

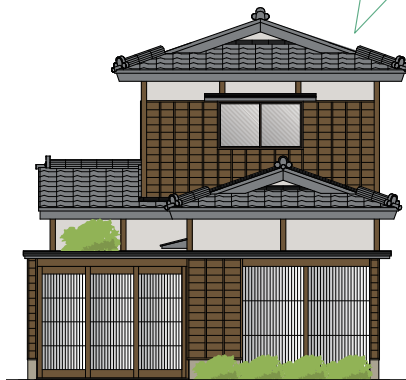
付柱・付梁・格子を設けながらも、現代的な仕上材を使用し、武士系近代和風住宅の形態を感じる外観



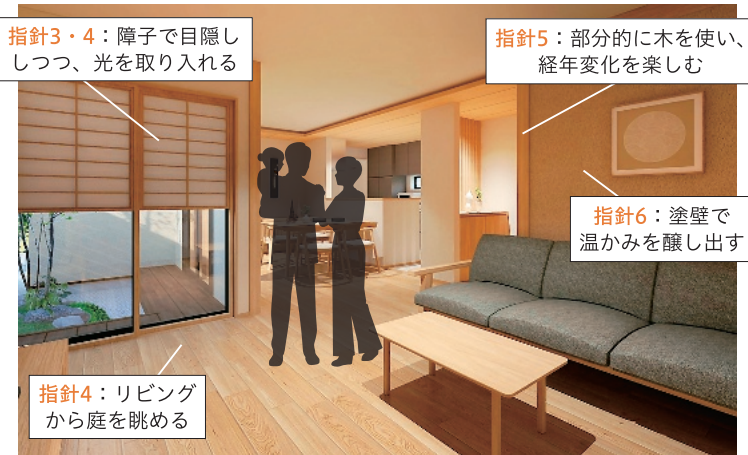
伝統的建造物群保存地区、こまちなみ保存区域などでは、新築・改修で補助の対象となります。

βプラン

押縁下見板張り、漆喰塗りで、金澤町家と同様な外観



内部イメージ



設計のポイント

指針1 | まちに住まう

格子戸で駐車スペースを目隠しし、まちなみに配慮する。格子戸を開けると、まちに解放された空間となり、玄関ホールと和室をつなげることで住民との立寄り交流ができる空間になる。格子戸を閉めると、プライベート空間を確保でき、外部との距離感を調整した住まい方ができる。

指針2 | まちなみにとけこむ

武士系近代和風住宅の形態を感じる外観の建物は、道路から後退させて、道路沿いの門・塀・前庭の植栽とともに、旧武士地の歴史的なまちなみにとけこむ。

指針3 | 環境に配慮する

コの字型の庭は1日中、光を取り入れつつ、下屋により夏の東西からの強い直射日光を遮る。道路沿いの格子戸は、外からの視線を遮りつつ、室内に光と風を取り入れる。2階は引戸を開け放てば、建物全体に風が通る。

指針4 | 四季を楽しむ

LDKがプライベート感のある庭に面し、室内から庭の四季を感じる。玄関の足箱上や、壁面にも生け花や工芸品を飾れるスペースを設ける。

指針5 | 長く大切に使う

2階ホールと洋室の間を構造壁とせず、将来、可変できる空間とする。

指針6 | 和を嗜む

独立した和室は、日常生活と離れ、茶の湯など伝統的な生活文化を楽しむ場にもなる。

設計要件・建物規模

敷地面積 (㎡)	136
間口 (m)	8
前面道路幅員 (m)	5
建築面積 (㎡)	70.33
1階床面積 (㎡)	68.53
2階床面積 (㎡)	41.4
延床面積 (㎡)	109.93
用途地域	第一種住居地域
指定建蔽率 (%)	60
指定容積率 (%)	200
防火規制	準防火地域

参考資料

■ 検討経緯

● 新しい金澤町家（仮称）のあり方検討委員会

【開催経緯】

会議名	開催日	議題
第1回検討委員会	令和4年12月5日（月）	・新しい金澤町家（仮称）の位置づけ ・新しい金澤町家（仮称）に継承すべき要素と現代生活との適合について
第2回検討委員会	令和5年2月6日（月）	・新しい金澤町家（仮称）のあり方に関する指針について
第3回検討委員会	令和5年7月20日（木）	・新しい金澤町家（仮称）ガイドライン（素案）について
第4回検討委員会	令和5年10月30日（月）	・新しい金澤町家（仮称）ガイドライン（案）について ・普及啓発施策について ・名称について
第5回検討委員会	令和6年2月22日（木）	・新しい金澤町家（仮称）ガイドライン（案）について

【委員】

（五十音順・敬称略）

氏名	所属・役職等	
道地 慶子	石川工業高等専門学校副校長・教授	委員長代理
永野 紳一郎	金沢工業大学教授	
鍋谷 一貴	一般社団法人 石川県木造住宅協会専務理事	
橋本 浩司	NPO法人 金澤町家研究会	
花輪 由樹	金沢大学准教授	
馬場先 恵子	金沢学院大学教授	
宮下 智裕	金沢工業大学教授	委員長

【アドバイザー】

（五十音順・敬称略）

氏名	所属・役職等
森 俊偉	金沢工業大学 名誉教授
山田 外志雄	一般社団法人 石川県木造住宅協会会長

● 設計事例作成

一般社団法人 石川県木造住宅協会 かなざわ新町家設計事例作成・普及啓発検討事業 検討委員会

写真協力：橋本 浩司氏、林 正人氏、北出 健展氏、NPO法人 金澤町家研究会、
宏州建設(株)、(株)玉家建設、中村住宅開発(株)

かなざわ新町家を考えよう ～金澤町家の知恵を活かしたこれからの住まい～

令和7年3月作成

金沢市 文化スポーツ局 歴史都市推進課

〒920-8577 金沢市広坂1丁目1番1号

TEL:076-220-2208 FAX:076-224-5046 mail:rekishitoshi@city.kanazawa.lg.jp

